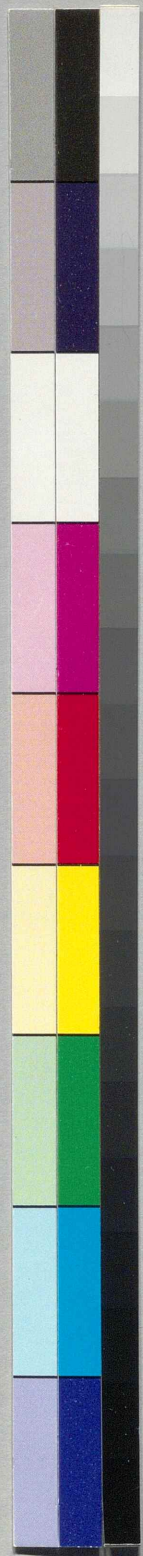


「学生便覧別冊」

平成元年度開講科目



お茶の水女子大学



平成元年度 行事予定表

月	日 (曜)	事 項
4月	10日 (月)	入学式
4月	14日 (金)	前学期授業開始
6月	7日 (水) ~ 9日 (金)	定期健康診断
7月	11日 (火) ~ 13日 (木)	新入生セミナー
7月	11日 (火) ~ 19日 (水)	補講日
7月	20日 (木) ~ 9月8日 (金)	夏期休業
9月	25日 (月) ~ 30日 (土)	前学期末試験
10月	1日 (日) ~ 7日 (土)	秋期休業
10月	9日 (月)	後学期授業開始
10月	25日 (水)	体育祭
11月	11日 (土)・12日 (日)	德音祭 (文化祭)
11月	29日 (水)	創立記念日
12月	25日 (月) ~ 1月9日 (火)	冬期休業
1月	12日 (金)・13日 (土)	大学入試センター試験のため臨時休業
2月	15日 (木) ~ 21日 (水)	後学期末試験
3月	23日 (金)	卒業・修了式

第一委員会・学生評議会 平成元年度

目 次	
一般教育科目	1
外国語科目	12
保健体育科目	26
留学生特別科目	27
文教育学部 (人文科学研究科)	29
理 学 部 (理学研究科)	87
家政学部 (家政学研究科)	115
教職専門科目	151
専任教官名簿	159
附 表	
行事予定表	
補導委員・学科主任一覧	

平成元年度 学科主任・補導委員一覧

学部	学 科	補 導 委 員				学科主任	
		1 年	2 年	3 年	4 年		
文 教 育 学 部	哲 学	江尾	原田	高羽	鳥入	土屋・秋山・宮島	米 村
	史 学	窪	添	青	木	安 田	大 口 青 木
	地 理	栗久	原保	田 宮	内 藤	井 内	式
	国 文	岩 崎	大 塚	白 藤	三 木	堤	
	中 文	相 原	宮 尾	藤 山	藤 山	藤 山	藤 山
	英 文	宮 川	酒 本	海 老 根	西 尾	酒 本	
	仏 文	石 川	中 川	中村(弓)	中 川	中 川	
	教 育	耳 塚	森	寺 崎	田 中	森	
	心 理	石 口	須 賀	藤 永	内 田	春 日	
	舞 踊	佐藤(良)	杉 山	片 岡	石 黒	森 下	
音 楽	徳 丸	遠 藤	大 宮	林	徳 丸		
理 学 部	数 学	藤 原	竹 尾	桂	沢 島	沢 島	
	物 理	太 田	菅 本	富 永	柴 田	池 田	
	化 学	前 田	富 田	福 田	瀬 野	瀬 野	
	生 物	馬 場	山 下	渡 辺	林	能 村	
家 政 学 部	児 童	山 本	杉 田	無 藤	森 田	黒 田	
	食 物	大 塚	荒 川	本 間	小 林	小 林	
	被 服	徳 井	小 川	駒 城	長 谷 部	小 池	
	家 経	篠 塚	松 浦	富 田	中 村	袖 井	

一 般 教 育 科 目
外 国 語 科 目
保 健 体 育 科 目
留 学 生 特 別 科 目

(一般教養科目)

人 文

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
哲 学	羽 入	I・II	「自己と他者」—自己は哲学的にはいかに根拠づけられ、自己と他者の関係はどのように議論されてきたかを、哲学史上の諸説を手がかりとして考察してゆく。
倫 理 学	尾 田	I・II 前	現代生活における倫理の問題を、科学、経済、政治、芸術、教育、宗教の側面からとりあげる。 教科書：「倫理学」(学陽書房)
論 理 学	吉 田	I・II 前	哲学との関係を考慮しながら、現代論理学の初歩について述べる。
心 理 学	石 井	I・II	人間の心を科学的に理解することを試みている心理学について、その歴史的経緯と現在の心理学の諸分野を広くとりあげるとともに、人間固有の高次の精神機能である認知の心理学を少し深くみる。
宗 教 学	島 蘭	I・II	日本を中心にアメリカなども参考にしながら、現代の宗教がどのような状況に置かれているか、どのような方向に向かおうとしているのかを考察し、あわせて宗教学の基本的諸概念を解説する。
文 学	I 浅井 堤	I	「文学とは何か」ということを、国文学の立場から考える。前期は近代文学を、後期は古典文学を対象として扱う。
文 学	II 酒 本	I・II	文学とは何か、文学をどう読むかを、具体例をあげて考えていきたい。例は担当者の専門領域から、アメリカ文学からのものが多くならざるを得ないが、できる限りそれ以外からも引用の予定。
国 語	白 藤	I・II	日本語の特色を、主として現代語について、考える。

文 人 (日科養達部)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容 特 徴
芸術学	秋山	I・II	インド美術史の概説を通じ、時代・地域によって如何に異なる芸術活動が成立し展開していくかを論じたい。参考文献は必要に応じ講義時間中に指示する。毎時間スライドを多用する。
音楽	佐野	I・II 前	19世紀末から20世紀初頭にかけての様々な音楽活動について、当時の社会的背景をふまえながら、印象主義、表現主義の音楽を中心に概説する。
音楽	徳丸	I・II 後	人間と音楽のかかわりを多様な文化から考えるが、日本の例が中心に置かれる。教科書：柴田南雄・徳丸吉彦編「民族音楽」(放送大学教育振興会) 参考書：山口修他編「楽の器」(弘文堂)

社 会

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容 特 徴
法学	中西	I・II	日本国憲法について概説する。一般教育としての講義であるので、あわせて法の一般理論についても及ぶこととする。教科書：清水陸著「憲法」南雲堂深山社 小型六法も必要
法学	長尾	I・II 前	親族相続法を中心として、民事法の概要を講ずる。(通年4単位で受講すること。単位の分割取得は認めない。なお受講者は家政学部のみ。)
法学	森田	I・II 後	前期の民事法講義を前提にして、後期は憲法及び刑事法の基本問題を取り扱う。(通年4単位で受講すること。単位の分割取得は認めない。なお受講者は家政学部のみ。)
法学	湯沢	I・II 前	家族を律する民法第4・5編の成立、親族・婚姻・離婚・親子・扶養に関する法的構成と裁判例の具体的説明。(小型)六法全書が必要。
法学	石黒	II・III 後	国際結婚・国際的親子関係・国際相続といった問題に即しつつ、国際的な法律問題の全体像について講義する。有斐閣(プリマ・シリーズ双書)・国際私法を教科書とするが、他に若干資料を用意する。
			外国人労働者の問題がクローズ・アップされている。この問題が日本の生活文化に与える影響や、労働時代の範囲にさかのぼってある。
			IT時代の到来 等、後、入、洋文、ハードウェア、ソフトウェアについて概説する。コンピュータ実習科の受講を希望するものは本講義の履修が望ましい。参考書：「コンピュータ入門」岩波書店

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
政治学	猪口小風	I・II	〔前期〕政治学の根本的な概念と枠組について、明快にわかりやすく解説する。 (猪口) 教科書：猪口孝『国家と社会』（東大出版会） 『社会科学入門』（中央公論社） 『国際政治経済の構図』（有斐閣） 〔後期〕日本の政治風土について考える。 (小風) <注意>政治学は必ず通年で履修すること。
経済学	柴垣	I・II	近代資本主義社会の生成・発展・爛熟の論理を解明することによって、社会を見る座標軸を明確にするとともに、日本経済の諸問題を検討する。 教科書：日高普『経済学』（岩波全書）
社会学	米村(前) 江原(後)	I・II	社会学の全分野をそれぞれの理論的背景と関連づけて概説する。(通年履修のこと)
歴史学	服藤	I・II(前)	日本古代における女性史研究の意義や具体的成果を、現在の婦人問題とも関連しながら紹介する。 参考書：脇田晴子編『日本女性史』（吉川弘文館）『日本女性史』1巻（東大出版）
歴史学	高野	I・II	日本近代史上の問題点をとりあげ、歴史を学ぶ視点や方法を考える。
文化人類学	田中	I・II	人間の生物学的基盤と人間が他の動物と異なる特徴；環境と技術と人の関わり；社会構造；イデオロギーの世界などの問題を中心に諸文化、諸社会の普通性と多様性について考える。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
地理学	向後	I・II(前)	世界の諸地域における女性の暮らしを、地理学的に考察する。環境、都市、工業開発などの問題に重点をおく。参考書はその都度紹介する。
地理学	栗原	I・II(後)	現代社会における地理学的研究の有効性について、現在の地理学的研究状況との関連で概観する。特に空間的不平等の問題について事例研究を紹介しながら考察する。
家政学	松浦他	I・II(後)	家政学は家庭生活を中心としながらも更に広く人間の生活を多面的に扱う総合科学である。本科目では家政学の諸問題に関して、文教育・理学部の学生を対象とした内容の講義を複数の教官が行う。
国際関係論	細野	I・II(後)	国際関係論の学問的体系の概要を提示しつつ、そのなかで日米経済摩擦、南北問題、累積債務危機、アジア太平洋地域の発展等、今日的な問題を例として研究していく。文献はその都度示すことにする。
婦人問題	篠塚	I・II(前)	現代の婦人問題について歴史的にどのように変化してきたかをみる。 東大出版会『日本女性史』全5巻、篠塚「日本の女子労働」（東洋経済新報社）
生活文化論	篠塚	I・II(後)	外国人労働者の問題がクローズ・アップされている。この問題が日本の生活文化にどのような影響を与えるのかを、明治時代の開国にさかのぼってみる。
情報学 I	久保	I・II(前)	情報処理の歴史、コンピュータの原理、ハードウェア、ソフトウェアについて概説する。コンピュータ実習科目の受講を希望するものは本講義の履修が望ましい。 参考書：「コンピュータ入門」岩波書店

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
情報学Ⅱ	久保	I・II後	情報システムについて学習する。情報システムの構成、機能、役割及び問題点について概説する。
情報処理講義演習	久保	I～IV前	BASICによるプログラミングの基礎と、文字処理、グラフィックスについての講義と実習を行う。情報学Ⅰを履習したか履習中であること。 教科書：「入門 BASIC」(株)アスキー。 対象学生：文教育、家政の文系学生。
			近代資本主義社会の生成・発展・成熟の論理を説明することによって、社会を見る座標軸を明確にするとともに、日本経済の諸問題を説明する。 教科書：日高啓「経済学」(岩波全書) II・I 藤原 隆 関 関 関 社会学の全分野をそれぞれの理論的背景と関連づけて概説する。(通年履修のこと)
			II・I 泉 壽 一 関 関 関 日蘭古代における女性史研究の意義や具体的な成果を、現代の婦人問題とも関連しながら紹介する。 参考書：藤田晴子編『日本女性史』(吉田弘文館)『日本女性史』I巻(東京大出版)・I 泉 壽 一 関 関 関 日本近代史上の重要点をとりあげ、歴史を学ぶ観点や方法を考える。
			月面を初め、宇宙と人間が他動動物界と動物界、環境と技術と人の関わり、社会構造、イデオロギーの世界などの問題を中心に諸文化、諸社会の普遍性と多様性について考える。

自 然 (文)：文系学生対象
(理)：理系学生対象

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
数学(文)Ⅰ	藤原	I～IV前	数学について、数学者について、それらを通して文化について。予備知識不要、知的好奇心必要。
数学(文)Ⅱ	島内	I後	いろいろなパズルやゲームを取り上げ、関連する数学的理論を講義する。
物理学(文)Ⅰ	大 路	I前	できるだけ身近で具体的な事例を手掛かりに、物理学の基本的な考え方をさぐってみたい。Iでは、物理的認識・力と運動・エネルギーを中心に述べる。高校物理学の履修は前提としない。
物理学(文)Ⅱ	大 路	I後	IIでは、近年の発展に重点をおき、巨視と微視・電気と磁気・現代の諸問題などのテーマを取り上げる。Iに接続して講義するが、独立に履修してもよい。通年の教科書・参考書は追って指示する。
化学(文)Ⅰ	今 野	I・II前	化学の基礎及び化学と社会とのかかわりについて主に生命科学・エネルギー問題・食糧問題、環境問題を概説する。 教科書：C. Compton著「化学Ⅱ-人間社会とのかかわり」(東京化学同人)
化学(文)Ⅱ	富 田	I後	化学の基礎となる重要事項が、どのようにして発見され発展したかの経緯、また現代社会に対する化学の貢献を概説する。 教科書：林太郎著「創造の化学」(裳華房)
生(物)学(文)Ⅰ	相 馬	I前	花を中心にして、その形や構造及び生殖について概説する。
生(物)学(文)Ⅱ	太 田	I後	人間を中心にして、生物学の見方や考え方を述べる。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
数 学 (理) I	久保内	I 前	実数の説明と、一変数の微分積分の基礎とその応用。 教科書：州之内治男、和田淳蔵共著「微分積分」サイエンス社
数 学 (理) I	西 沢	I 前 家 政	高校数学との関連を配慮しながら、微積分の基本事項を解説し、数値解析の重要性を数値計算・近似法を通して説明する。 教科書：志賀浩二数学30講シリーズ1「微分・積分30講」朝倉書店
数 学 (理) II	高 村	I 前	線形代数学入門。後期の初等線形代数学(理・共通)につづく。 教科書：村上、佐藤、野沢「教養の線形代数」(培風館)
数 学 (理) II	小 山	I 前 家 政	線形代数のうち、行列、行列式、連立一次方程式の解法など。 教科書：村上、佐藤、野沢「教養の線形代数」(培風館)
物 理 学 (理) I	北 原	I・II 前	古典力学の概説を中心として、弾性体力学、流体力学並びに原子分子の運動論などにも触れる。講義ノートは必要に応じて配布する。
物 理 学 (理) II	亀 井	I・II 後	熱力学及び電磁気学の初等的な部分を概説し、これらを用いて理解することのできる物質の諸性質にふれる。
化 学 (理) I	山 崎	I・II 前	化学学習上最低の基礎になる事項のいくつかを、化学未修の諸姉をも考慮の上取上げる。物質の三態、平衡論、化合物命名システムなど。
化 学 (理) II	前 田	I 後	有機化学の基礎。 教科書：中崎昌雄著「基礎有機化学」(朝倉書店)

※印科目の履修は、講義内容の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
生 物 学 (理) I	新 関	I 後	遺伝学入門。基礎的な知識と新しい発展について述べる。
※ 生 物 学 (理) II	芦 原	I 前	植物における炭素の代謝(光合成、光呼吸、解糖系、ペントースリン酸経路、クエン酸サイクル、グリオキシル酸サイクルなど)について述べる。 ○高校の生物の講義
地 学 (天文気象)	山 崎	I・II 前	現代天文学の基礎と、最新の宇宙像について述べる。
地 学 (地質鉱物)	荒 牧	I 前	地球の誕生・成長の歴史や内部の構造・地表の営みなど。例として火山活動について掘り下げて考えてみる。
統 計 学 I	草 間	I 前	統計学の基礎概念を、出来るだけ数学が重荷にならぬよう講義する。 教科書：小林敬子「基礎統計学」(学術図書出版社)
環 境 科 学	内 嶋	I～III 後	自然環境と人間との共生を目指して、環境の成立メカニズム、それへの人間の働きかけによる変化を大気・水域・土・生物の分野から総合的に概説する。最後に地球的な環境悪化についてもふれる。
※情報科学講義演習 A	佐 藤	I・II 前	数値計算の問題を中心としたFORTRANによるプログラミングの講義と演習。82名まで。 ○電子計算機、情報学 I、情報学 II 対象学生：数学、物理、化学
※情報科学講義演習 B	竹 沢	I・II 後	統計処理の問題を中心とした FORTRANによるプログラムの講義と演習。82名まで。 ○電子計算機、情報学 I、情報学 II 対象学生：生物、家政の理系学生

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初 級	海老根	文 I A	Lewis Carroll : <u>Alice's Adventures in Wonderland</u> (北星堂 ¥950)
初 級	湊	文 I A	Frank Steele : <u>Living in Washington</u> (ニューカレントインターナショナル社、¥1,600)。Roald Dahl: <u>Charlie and the Chocolate Factory</u> (篠崎書林、¥900)
初 級	湊	文 I B	Frank Steele : <u>Living in Washington</u> (ニューカレントインターナショナル社、¥1,600)。Roald Dahl: <u>Charlie and the Chocolate Factory</u> (篠崎書林、¥900)
初 級	羽 鳥	文 I B	アメリカの歴史・人物・生活等に触れながら、速読力を高めると共に、総合的な英語の演習を行なう。教科書：K.Kitao & S.K.Kitao 編著 <u>American Potluck</u> (朝日出版社)
初 級	篠塚 (前) 宮川 (後)	文 I C	Peter Milward, <u>My Twelve Basic Books</u> (鶴見書店) James Meyers, <u>There's a Reason for Everything.</u> (マクミラン・ランゲージハウス)
初 級	松 崎	文 I C	次のテキストを精読し読解力を養う。 『スティーヴン・キング短篇集』稲積包昭ほか 編注 (開文社)
初 級	園城寺	文 I D	欧米の興味ある風俗・習慣のロマンティックな起源を辿る。教科書：R. Brasch <u>HOW DID IT BEGIN</u> (金星堂)、etc.
初 級	西 尾	文 I D	<u>Listen For it</u> (Oxford University Press) B. Ruben : <u>Non-Verbal Codes</u> (桐原書店)
上 級	馬 場	文 II A	使用テキスト：M.L.Geis : <u>The Language of Conversation</u> (金星堂)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
上 級	羽 鳥	文 II A	テキストは、興味深い日本文化論である。授業は講読を中心に進めるが、hearing や oral reading の訓練も同時に行なう。教科書：Adrian J. Pinnington 著 <u>Inside Out</u> (三修社)
上 級	佐 藤	文 II B	BACK TO THE FUTURE で有名なマイケル・J・フォックスが主演するファミリー・タイズを教材に口語英語を学ぶ。第1回の授業には60分カセットテープを持参すること。
上 級	松 崎	文 II B	次のテキストを精読し読解力を養う。 P.G. Wodehouse, <u>The Man Upstairs & Other Short Stories</u> 北川悌二編注 (北星堂)
上 級	湊	文 II C	News Flash '89 ①-④(nci社、年4回刊行、毎回¥380)。Berlitz & C. Itoh: <u>Living Abroad</u>
上 級	西 尾	文 II C	「第3の男」(開文社)、B. Greene : <u>American Beat</u> (Penguin)
上 級	松 崎	文 II D	次のテキストを精読し読解力を養う。 Mark Twain, <u>Adam's Diary & Eve's Diary</u> 岩月精三編注 (三修社)
上 級	湊	文 II D	News Flash '89 ①-④(nci社、年4回刊行、毎回¥380)。Berlitz & C. Itoh: <u>Living Abroad</u>
初 級	俵 田	理 I A	小池直己著「20ユニットシリーズ①-20 <u>Current Topics</u> 」(弓書房) Gary Althen : <u>American Ways</u> (マクミランランゲージハウス)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初級	高 原	理 I A	人間の行動パターンの根底にある見えな いものに目を開く。Desmond Morris : Manwatching - A Study of Human Behaviour. (金星堂)
初級	篠 塚	理 I B	Philippa Pearce : Tom's Midnight Garden (Penguin Books)
初級	吉 岡	理 I B	Thomas Hardy : Barbara of the House of Grebe (南雲堂)
上級	今 西	理 II A	英語を読む能力、聴く能力の向上をめざ して演習を行なう。教材については、教 室で指示する。
上級	山 口	理 II A	下記の2冊の教材を使用して、対人コ ミュニケーションの能力を養成する。 1. Communicating Person-to-Person by Donald W.Klopf and S.Ishii (桐原書店) 2. The Road from Writing to Speaking by S.Yamaguchi and Timothy Minton (成美堂)
上級	今 井	理 II B	T.Leggett : England : The Heart of Tradition (成美堂、¥980) 後期は短篇小説集を読む予定。
上級	渡 辺	理 II B	A.Bierce : The Eyes of the Panther & Other Stories (北星堂)
初級	俵 田	家 I A	長谷川潔他編著「マスコミから学ぶ英語」 (成美堂)。その他の教材は随時配布し ます。
初級	高 原	家 I A	イギリス生れの著名な文化人類学者の鋭 い考察を読み、アメリカ、ついで日本を 考える。Ashley Montagu : America As I See It (成美堂)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初級	篠 塚	家 I B	L.M.Montgomery : Anne of Avonlea (Penguin Books)
初級	吉 岡	家 I B	Thomas Hardy : Barbara of the House of Grebe (南雲堂)
初級	佐 藤	家 I C	BACK TO THE FUTUREとローマの休日を教 材にして口語英語について学ぶ。字幕な して映画を観ることを目標とする。第1 回の授業には60分カセットテープを持参 すること。
初級	小田川	家 I C	E.Hemingway 他 : British and American Masterpieces. その他、テープとプリン ト(各時間に配布)による聴き取り訓練 を行う。
上級	湊	家 II A	Roald Dahl : Charlie and the Choco- late Factory (篠崎書林、¥900)。 Berlitz & C.Itoh : Living Abroad
上級	山 口	家 II A	下記の2冊の教材を使用して、対人コ ミュニケーションの能力を養成する。 1. Communicating Person-to-Person by Donald W.Klopf and S.Ishii (桐原書店) 2. The Road from Writing to Speaking by S.Yamaguchi and Timothy Minton (成美堂)
上級	西 尾	家 II B	C.Mosdell : The Heart of America (Macmillan)、他プリント配布。
上級	渡 辺	家 II B	O. Henry : After Twenty Years & Other Tales (研究社)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
上級	内田	家ⅡC	Colin Ford and Brian Harrison : A Hundred Years Ago : Britain in the 1880s in Words and Photographs(1983)より3章を選んで読む。教材はプリント。
上級	岩倉	家ⅡC	一般的な社会問題を理解し、表現する力を養うことを目的として、各種のテキストを選定し、講読を行う。
英会話演習全Ⅰa	ルイス	I (文)	EAST・WEST STUDENT BOOK 1 (OXFORD UNIVERSITY PRESS)
英会話演習全Ⅰb	ルイス	I (家)	EAST・WEST STUDENT BOOK 1 (OXFORD UNIVERSITY PRESS)
英会話演習全Ⅰc	ルイス	I (文・理・家)	EAST・WEST STUDENT BOOK 1 (OXFORD UNIVERSITY PRESS)
英会話演習全Ⅱ	クレイ	Ⅱ	This course will use the lives and the songs of the Beatles to improve communication skills in English. Active participation (answering questions on the text & video, and singing) and regular attendance are required. There will be some written homework, too. TEXT: ・The Beatles by Chris Mosdell (Kinseido/Tokyo/1984) ・The Beatles Lyrics (Futura Publications/London/1979)

ドイツ語

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初級		I	文法と演習は毎週それぞれ2時間ずつ、通年合計2単位。読本は毎週2時間ずつ、通年2単位。各級とも文法・演習・読本合計6時間4単位履修。
初級	杉本	文ⅠA (文法)	杉本・石丸・菅野編「新・ドイツ語の文法」(第三書房)
初級	杉本	文ⅠA (演習)	同上
初級	川口	文ⅠA (読本)	P. Kapitza・中田編「ロマンチック街道」(同学社)
初級	石丸	文ⅠB (文法)	杉本・石丸・菅野編「新・ドイツ語の文法」(第三書房)
初級	石丸	文ⅠB (演習)	同上
初級	平尾	文ⅠB (読本)	平尾編:「新しいドイツ語読本 — 北から南へ —」(同学社)
初級	菅野	理ⅠA (文法)	杉本・石丸・菅野編「新・ドイツ語の文法」(第三書房)
初級	光野	理ⅠA (演習)	浜川・光野編「ドイツ語への招待」(白水社)
初級	千艘	理ⅠA (読本)	信岡編「ドイツ語のトレーニング」(三修社)
初級	杉本	理ⅠB (文法)	杉本・石丸・菅野編「新・ドイツ語の文法」(第三書房)
初級	杉本	理ⅠB (演習)	同上

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初級	渡 辺	理ⅠB (読本)	平尾編：「新しいドイツ語読本 — 北から南へ —」(同学社)
初級	喜多尾	家ⅠA (文法)	吉田編「ドイツ語入門(三訂版)」(白水社)
初級	志 賀	家ⅠA (演習)	古賀編「メモリー・ドイツ文法」(同学社)
初級	光 野	家ⅠA (読本)	早崎編「シュルツ家の人々(新訂版)」(第三書房)
初級	石 丸	家ⅠB (文法)	杉本・石丸・菅野編「新・ドイツ語の文法」(第三書房)
初級	石 丸	家ⅠB (演習)	同上
初級	平 野	家ⅠB (読本)	信岡編「ドイツ語のトレーニング」(三修社)
上級	上 野	文ⅡA	W.Bräunig「働き手たちの港」(三修社)
上級	石 丸	文ⅡA	M.Mitscherlich「偏見の心理学」(郁文堂)
上級	菅 野	文ⅡB	R.Schinzinger「トーマス・マン」(第三書房)
上級	渡 辺	文ⅡB	A.Schnitzler「盲目のジェロモノとその兄」(同学社)
上級	長谷川	理ⅡA	S.Lenz「セルビアの娘」(芸林書房)
上級	志 賀	理ⅡA	W.Heitler「ゲート対ニュートン」(同学社)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
上級	上 野	理ⅡB	H.Killian「診断」(第三書房)
上級	千 艘	理ⅡB	W.Hildesheimer「ワルザー氏の鴉」<改訂版>(南江堂)
上級	長谷川	家ⅡA	M.Walser 他「ドイツ人の見た日本」(白水社)
上級	平 野	家ⅡA	国信・安藤編「ドイツ・ことばと文化 — やさしく読めるドイツ文化史」(朝日出版社)
上級	上 野	家ⅡB	内藤編「医学ニュースを読もう」(郁文堂)
上級	平 尾	家ⅡB	H.Wiener「ウィーンの空の下」(白水社)
高級	川 口	文教育Ⅲ・Ⅳ	W.Heisenberg、「自然科学的真理と宗教的真理」(郁文堂)
高級	喜多尾	理・家Ⅲ・Ⅳ	J.Roth「ホテルと私」(郁文堂)
独 会 話 (初級)	ジークリト・酒井		初回にきめる。
独 会 話 (上級)	ジークリト・酒井		初回にきめる。

フランス語

科 目	教 官	学 年	予 学 講 義 内 容 科 目
初 級		I	文法と演習は毎週それぞれ2時間ずつ通年合計2単位。読本は毎週2時間ずつ通年2単位。各級とも文法・演習・読本合計6時間4単位履修。
初 級	中 村 (俊)	文I A (文法)	「よくわかるフランス語文法」(駿河台出版社、¥1,100)
初 級	中 村 (俊)	文I A (演習)	[なお文法、演習の両クラスで同じテキストを用いるから、必ず、両クラスに出ること。]
初 級	金 子	文I A (読本)	中山真彦「デパール」(白水社)
初 級	中 川	文I B (文法)	「ブルミエ・マニユエル — フランス文法」(行人社 ¥800)
初 級	(中川) (中村)	文I B (演習)	[なお文法、演習の両クラスで同じテキストを用いるから、必ず両クラスに出ること。]
初 級	中 條	文I B (読本)	齊藤一郎編「オペラ! カルメン」(白水社)
初 級	中 村 (俊)	理 I (文法)	「新川村ふらんす語—新装A5決定版—」(駿河台出版社)
初 級	中 村 (俊)	理 I (演習)	[なお文法、演習の両クラスで同じテキストを用いるから、必ず両クラスに出ること。]
初 級	中 村 (弓)	理 I (読本)	中川『こんにちはカロリース』(駿河台出版社)
初 級	中 村 (弓)	家 I (文法)	猪狩・斎藤共著「新訂・初めてのフランス語—文法と演習—」(三修社、¥1,500)

ロシア語

科 目	教 官	学 年	予 学 講 義 内 容 科 目
初 級	石 川 家 I (演習)	I	[なお文法、演習の両クラスで同じテキストを用いるから、必ず、両クラスに出ること。]
初 級	中 條 家 I (読本)	I	M.F.デルモン保坂「オルセー物語」(第三書房)
上 級	一 馬 家 II	II	上級講読は、毎週2時間単位で通年2単位。各級とも毎週4時間4単位履修。
上 級	西 村 文 II A	A	マルタン＝デュ＝ガール「チボー家の人々」(第三書房)を講読する。
上 級	中 川 文 II A	A	V.Hugo, <i>Choses vues</i> (実見録) (駿河台出版社 ¥920)
上 級	後 藤 文 II B	B	19世紀後半自然主義時代の作家ギ・ド・モーパッサンの短篇集『勲章もらった(Décoré!)』を読む。(駿河台出版社)
上 級	中 島 文 II B	B	未 定
上 級	中 村 理 II (弓)	II	ルネ・デュボス「工業社会とファウスト的文明」(駿河台出版社)
上 級	西 村 理 II	II	アポリネール「オノレ・シュブラックの消滅」・ラディゲ「ドゥニーズ」(錬金社)を講読する。
上 級	石 川 家 II	II	三木・高塚共編「初雪」(第三書房、¥600)
上 級	中 沢 家 II	II	「シュルプールの雨傘」をビデオとテープを併用しながら読んでいこうと考えています。

フランス語

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
高級フランス語	中川	Ⅲ・Ⅳ	A. Camus «L'Etranger» (extraits) (第三書房版 ¥1,000)を講読する。
仏会話初級	シヤンタル 西村	I~IV	Entrée Libre Iを用いる。テキストは仏文研究室で販売する。
仏会話上級	シヤンタル 滝野	Ⅱ~Ⅳ	ビデオ・テープ(“Entrée Libre” 1. Leçon 7から)に基づいて会話練習をおこなう。その後“Entrée Libre” 2

ロシア語

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初級	前木	全 I	初学者を対象として、ロシア語の読み、書き、初等文法の習得を目差す。教科書：佐藤純一編「ロシア語初級クラス」(白水社)
初級	桑野	全 I	ロシア語の発音と初等文法。教科書：桑野隆編「はじめてのロシア語」(白水社)
初級	安岡	全 I	ロシア語の基礎文法及び基本語彙の修得を目指す。教科書：佐藤純一著「ロシア語初級クラス」(白水社)の予定。ただし受講生と相談の上変更もあり得る。
上級	前木	全 II	初級ロシア語を終了した者を対象とする。チェーホフの短編を読みながら、初級でやらなかった文法事項など随時説明してゆく。教科書：A. П. Чехов “Юморстические Рассказы”(ロシア語出版)
上級	桑野	全 II	中級程度の読物と作文。教科書：米川哲夫他編「ロシア語作文の基礎」(白水社)
ロシア語会話	ライヤ 奥田	全	基本的な会話ができるようになることを目的とする。日常生活や学生生活についても話をする予定である。テキスト：A. アキーシナ、狩野享『ロシア語教程』(ナウカ)

中国語

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
中国語初級A(読本)	宮尾	全 I	前期は現代中国語の基礎を学ぶ。後期は平易な現代語の文章を読む。 テキスト：『標準中国語1』(上野恵司) 白帝社 ¥1,300
中国語初級A	藤山	全 I	発音と基本的文法の習得を目標とする。 テキスト：『大学中国語』— 語法マスター二十回— (今富正巳・横川伸・守屋宏則) 朝日出版社 ¥1,300
中国語初級A	平松	全 I	発音練習と簡単な中国語の聞き取りをしながら、初歩的文法を学ぶ。 テキスト：『中国語I入門編』(頼、平松共編) 放送大学教育振興会 ¥1,500
中国語初級B(読本)	宮尾	全 I	前期は現代中国語の基礎を学ぶ。後期は平易な現代語の文章を読む。 テキスト：『標準中国語1』(上野恵司) 白帝社 ¥1,300
中国語初級B	佐藤	全 I	前半は中国語の基礎的な語法の学習を行い、後半には作品の講読を行う予定である。テキスト：『用例・用法 初級中国語』(荒川清秀著) 光生館 ¥1,200
中国語初級B	小島	全 I	中国語文法の基礎をマスターさせることに主眼をおいて授業を行う。 テキスト：『現代中国語基礎』(伝田章著) 内山書店 ¥1,200
中国語上級A	加藤	全 II	中国社会のさまざまな側面を伝える最新の新聞記事を読む。日本の新聞の社説にあたる社論、投書なども交えて、多様な文体を読みこなす力を養う。 テキスト：教室で随時配布する。

日本語・日本事情

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
中国語上級A	狄	全 II	中国語の基礎文法の学習を重点的に行い、あわせて300前後の常用語彙を学ぶ。また発音・声調・イントネーションの厳格な訓練を行う。テキスト：『新中国語』2(北京語言学院編) 中華書店 ¥1,000
中国語上級B	平松	全 II	現代作家の短編小説を読みながら、中国語の構文を学ぶ。テキストは教室で配る。
中国語上級B	狄	全 II	中国語の基礎文法の学習を重点的に行い、あわせて300前後の常用語彙を学ぶ。また発音・声調・イントネーションの厳格な訓練を行う。テキスト：『新中国語』2(北京語言学院編) 中華書店 ¥1,000
中国語(高級)	加藤	全 III	『独身的女子們』『私奔：当代鄉村の一箇奇異時尚』など、結婚をめぐる問題をとりあげたルポルタージュや論文を読む。テキスト：授業時にプリントを配布する。
中国語会話	狄	全 II~IV	日常生活の場面を中心に、学生の口頭発表の能力を養う。あわせて句型と慣用語句を学習し、正しい発音・イントネーションを身につけるようにする。 テキスト：『中国語会話初級』(北京語言学院編) 光生館 ¥1,800
日本語(Ⅰ)	平田	全 I	日本語能力試験の初級程度の学力(日本語「の説明参照」)を有する者を対象に、社会科学的論文を読み、かつ得意なことにして、日本の社会事情に関する知識を習得させることを目的とする。
日本語(Ⅱ)	本郷	全 II	日本語能力試験の初級程度の学力(日本語「の説明参照」)を有する者を対象に、社会科学的論文を読み、かつ得意なことにして、日本の社会事情に関する知識を習得させることを目的とする。
日本語(Ⅲ)	大塚	全 III	日本語能力試験の初級程度の学力(日本語「の説明参照」)を有する者を対象に、社会科学的論文を読み、かつ得意なことにして、日本の社会事情に関する知識を習得させることを目的とする。

保健体育科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
保健体育講義	佐藤 藤山 杉山 下 森加賀 加賀 奥野	I 前	現代スポーツと身体科学の諸問題について。
体育実技	佐藤 藤山 杉山 加賀 加賀 沢末 横友井 三浦 有賀	I・II	テニス、ソフトボール、サッカー、バレーボール、バスケットボール、卓球、ダンス、体操などを行なう。なお、1年次初めおよび2年次終わりに、体力診断テストを行なう。
体育実技	佐藤 藤山 杉山 加賀 加賀 沢末 横友井 三浦 有賀	II~IV	別に定める学内及び学外の実習計画に参加する。(選択球技、ダンス、水泳、スキーなど)

(日本語・日本事情)

留学生特別科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
日本語 I	水谷 文		日本語能力試験3級程度の学力(基本的な文法、漢字約300字、語彙約1,500語を習得し、日常生活の会話ができる力)を有する者を対象に、聞く、話す、読む、書く力の総合的補強を目的とする。
日本語 II	本郷 文		日本語能力試験2級程度の学力(やや高度の文法を解し、漢字約1,000字、語彙約6,000語、一般的な会話のできる力)を有する者を対象に、聞く、話す、読む、書く力の総合的補強を目的とする。
日本語 III	平田 文		日本語能力試験で1級程度の学力(高度の文法を解し、漢字約2,000字、語彙約10,000語、社会生活・大学での学習や研究に役立つ能力)の総合的補強を目的とする。
日本語 IV	中山 後		主として日本語能力試験3級程度の学力(日本語Iの説明参照)を有する者を対象に、大学における学習能力を増進させることを目的として、語学的訓練を行う。
日本事情 I	平田 文		日本語能力試験1級程度の学力(日本語IIIの説明参照)を有する者を対象に、VTR、新聞雑誌記事を素材にして時事問題を討議しつつ、現代日本の諸事情を理解させる。
日本事情 II	本郷 文		日本語能力試験2級程度の学力(日本語IIの説明参照)を有する者を対象に、社会科学関係の論文を読み、かつ討論することによって、日本の社会事情に関する知識を獲得させることを目的とする。
日本事情 III	大塚 文		日本の歴史を、やさしい教材と図版を用いて、わかりやすく解説する。

哲 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
哲学概論	吉田	Ⅱ～Ⅳ	哲学的にものごとを論ずるとはどのようなことかを理解してもらうことを目的として、いくつかの基本的問題を扱う。
西洋近代哲学史	羽入	Ⅱ～Ⅳ	ルネサンスから現代までの哲学的思索の流れを、今日の哲学的諸問題を基点として、過去に溯って概観する。隔年講義。
哲学特殊講義Ⅰ	吉田	Ⅲ・Ⅳ	論理学と哲学との関係を論ずる。必要に応じて論理学の技術的な面での訓練を行う。
哲学特殊講義Ⅱ	土屋	Ⅲ～Ⅳ	アリストテレスの存在論の核心をなす『形而上学』第7巻を研究する。テキストは英訳を使用（ギリシア語でも可）。
哲学特殊講義Ⅲ	黒崎	Ⅲ・Ⅳ	カントの『純粹理性批判』をていねいに読みながら、同時に、現代のさまざまな哲学的諸問題をカント的視点から考察する。教科書：I.Kant, Kritik der reinen Vernunft(PhB版)
哲学講義演習Ⅰ	吉田 土屋 羽入	Ⅲ・Ⅳ	現代哲学を代表する論文（英米系のものを中心として）をいくつか講読して、現代哲学の諸問題を検討する。
哲学講義演習Ⅱ	土屋	Ⅲ～Ⅳ	ウィトゲンシュタイン『哲学探究』を読む。今年は主としてルールの問題を扱った部分を読む。最初は全般的な解説をする。テキストは独語でも英訳でも可。
哲学講義演習Ⅲ	土屋	Ⅲ・Ⅳ	哲学の基礎的な論文を読む。テキストは受講者と相談して決める。
哲学講義演習Ⅳ	坂部	Ⅲ・Ⅳ	ライプニッツ『形而上学叙説』を仏独対訳で講読する。出席者は両国語いずれかの心得があればよい。テキストはコピーを使用。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
哲学講義演習Ⅴ	羽 入	Ⅰ 後	哲学の基礎的文献の講読を通して、哲学的な考え方、理論の組み立て方について学ぶ。哲学入門ゼミ。
倫理学概論	尾 田	Ⅱ～Ⅳ	倫理学の基礎概念、その体系と歴史、とくに人間概念の誕生と発展のあとをたどる。
東洋倫理思想史		Ⅱ～Ⅳ	中国文学科「中国芸文思想史」をもって代えることができる。
西洋倫理思想史	林 田	Ⅱ・Ⅲ	「倫理の主体」の問題を核心とする西洋倫理思想史の構想を示した後、近現代の西洋倫理思想の展開を、人格と実存との思想を中心にあとづける。
日本倫理思想史	高 島	Ⅱ・Ⅲ	日本倫理思想史の主要な問題を、概説する。参考書：『日本思想史入門』（相良享編、ペリかん社）
倫理学特殊講義Ⅰ	高 島	Ⅲ・Ⅳ	中世日本の無常観について考える。本年は、『徒然草』等を演習形式で読む。テキストは、授業のはじめに指定する。
倫理学特殊講義Ⅱ	竹 内	Ⅱ～Ⅳ	国木田独歩『欺かざるの記』を読む。「事実、感情、思想史」の副題をもつこの日記は、青年独歩の5年間にわたる自己と世界をめぐる観照と感懐の記録である。テキストはプリントを用意する。
倫理学講義演習Ⅰ	高 島	Ⅲ・Ⅳ	近世日本の思想をあつかう。本年は、本居宣長を読む。テキストは、授業のはじめに指定する。
倫理学講義演習Ⅱ	尾 田	Ⅱ～Ⅳ	古代ギリシアの箴言「汝自らを知れ」を中心に、その解釈の変遷の歴史をたどる。(続講)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
倫理学講義演習Ⅲ	高 島	Ⅰ 前	哲学科新入生のための倫理学入門ゼミ。テキストは、相良享『日本人の心』（東京大学出版会）など。
美学美術史特殊講義Ⅰ	辻	Ⅱ～Ⅳ	西洋中世絵画史の古代末期から中世末期までの作品を特定のポイントから概観。西洋美術史及び美学概論に代える。
美学美術史特殊講義Ⅱ	千 葉	Ⅱ～Ⅳ	いま最もアクチュアルな問題である「美術における近代性と現代性」について、西欧（とアメリカ）地域および東アジア（主として日本）地域にわたって、歴史的な跡づけと理論的考察の両面から、研究する。スライド使用。
美学美術史特殊講義Ⅲ	秋 山	Ⅱ～Ⅳ	東洋美術の大きな核をなす仏教美術について講じる。今年度は東アジアから日本に及ぶ仏教美術史を概観する。「東洋美術史」に代える。
美学美術史特殊講義Ⅳ	小 林 (宏)	Ⅱ～Ⅳ	日本美術への中国美術の影響について講義する。近世絵画が明清絵画及び版画をどのように受容し発展の資としたかを考察するが、これまで注目されていない明清版画の多様な利用状況に重点を置く。
美学美術史講義演習Ⅰ	辻	Ⅱ～Ⅳ	素描について。(F. Ames-Lewis, Drawing in Early Renaissance Italy, Yale Univ. Press, 1981) をテキストに使用)
美学美術史講義演習Ⅱ	秋 山	Ⅱ～Ⅳ	美術史学に欠くべからざる作品調査を実習する。調査のための研修旅行も予定しているが、受講生の自主的参加が特に望まれる。
美学美術史講義演習Ⅲ	辻 秋 山	Ⅲ・Ⅳ	卒業論文作成に向けて、各自の研究題目の選択と研究方法などを検討し指導する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
美学美術史講義演習Ⅳ	秋 山	Ⅲ・Ⅳ	東洋美術史に関する文献を講読する。今年度は「七大寺巡礼私記」を扱う予定である。
美学美術史講義演習Ⅴ	秋 山	Ⅰ・後	美術史学の方法論を理解するための基礎的な入門ゼミ。本年度は女神像の成立とその特質について考えたい。テキストは最初の講義時間に指示する。
社会学概論	宮 島	Ⅱ～Ⅳ	社会学の思考方法をできるだけ具体的に知ってもらうため、デュルケムの『自殺論』を手がかりとし、個人主義の問題、社会的行為の理論、逸脱行動の捉え方などを論じる。教科書：宮島『自殺論を読む』（岩波書店）
社会調査（共通科目・社会学特講Ⅱ）	山 崎	Ⅱ～Ⅳ	社会調査論、社会調査の計画と過程、データ蒐集の技法、調査結果の整理とまとめ、等について講義をし、これらと並行してテーマを決めて社会調査の全過程にかかわっての実習を行う。（隔年開講なので注意）
社会学特殊講義Ⅰ（共通科目・社会学特講Ⅰ）	米 村	Ⅱ～Ⅳ	家族社会学とのかかわりにおいて、ヨーロッパ家族史研究について講義する。
社会学特殊講義Ⅱ	宮 島 江 原	Ⅱ～Ⅳ	労働における平等と差別。業績主義社会といわれる現代でありながら、労働の諸条件には性別、年齢、民族、国籍など属性原理による差別がみられる。その実態を踏まえながら、平等とは何かを考えてみたい。（通年履修のこと）

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
社会学特殊講義Ⅲ	小 林	Ⅱ～Ⅳ 後	社会福祉の理念、基礎的概念、制度的枠組などについて、高令化社会の到来との関係をふまえて概説する。教科書：岡村重夫「社会福祉原論」（全国社会福祉協議会）（後期集中講義）
社会学講義演習Ⅰ	米 村	Ⅱ～Ⅳ	Berk, S.F.の“Gender Factory”を中心に、household, employment, Genderと関連する文献を講読する。
社会学講義演習Ⅱ	宮 島	Ⅲ・Ⅳ	現代社会の諸社会問題への導入としてA. Giddens, Sociology, 1982を読み、後半では関連したテーマについて独語、仏語の論文を割り当て、報告してもらう。独語または仏語既修を参加の条件とする。
社会学講義演習Ⅲ	江 原	Ⅱ～Ⅳ	前半は昨年にひきつづいて、W.HandelのEthnomethodologyを読む。後半は、エスノメソドロジー関係の論文を読む。
社会学講義演習Ⅳ	宮 島	Ⅰ 前	現代の社会と社会問題にかんする文献を共に読み、討議を行なう。参加者の報告及び討議への積極参加を重視する。

史 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
史 学 概 論	窪 添	I 前	歴史とは何か、歴史学の方法とは何かといった問題を、具体的な歴史叙述にふれつつ、できるだけ具体的に検討してみたい。
日 本 史 研 究 法	青 木	I 前	日本史を学ぶ視点・方法・史料などについて述べる。
東 洋 史 研 究 法	窪 添	I 後	東洋史に関する論文を読み、その成り立ちを検討することを通じて、視点・方法・史料等について学ぶ。
西 洋 史 研 究 法	山 本	I 前	ヨーロッパ近代とは何かを考えながら、日本における西洋史研究の動向を検討する。
日 本 史 概 説	季 武	I 後	開国、維新で幕を開けた近代日本が、どのような変遷をとげて現在に至っているか、について概説する。
東 洋 史 概 説	末 次	I 前	女性解放と家族の関係に焦点をあて、近現代史を中心とし、中国史をふりかえてみる。
西 洋 史 概 説	柴 野	I 後	19世紀ヨーロッパを中心に近代史を論じる。近代国家と社会の問題が焦点になる。
日本史講義講読(1)	小 風	II 前	伝記史料の輪読。
日本史講義講読(2)	安 田	II 後	古文書を通して古代中世史にふれる。
東洋史講義講読(1)	末 次	II 前	1943中共中央<各抗日根拠地当面の婦女工作方針に関する決定>は大きな影響力をもったが、その評価は分れている。中文・日文・英文の論文・史料をよんで、この決定の歴史的評価について考える。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
東洋史講義講読(2)		II 後	未 定
西洋史講義講読(1)	柴 野	II 前	近現代ヨーロッパ史の欧語文献を講読する。
西洋史講義講読(2)	平 野	II 後	アメリカ史の英文史料・研究文献から平易なものを選んで講読する。
日本史特殊講義(A)	青 木	III・IV 後	律令制定の歴史と律令国家の成立過程。
日本史特殊講義(B)	小 風	III・IV 前	明治史の諸問題。
日本史特殊講義(C)	安 田	III・IV 後	前年度につづいて、中世都市奈良の諸側面について考えてゆく。
日本史特殊講義(D)	高 埜	III・IV 前	近世後期の天皇・朝廷をめぐる問題を扱っていきたい。
日本史特殊講義(E)	荒	III・IV 後	戦後占領期(1945~1952)を中心に政治史上の諸問題を再検討する。参考文献は講義中に適宜指示する。 教科書：信夫清三郎『戦後日本政治史』(全四巻、勁草書房)
東洋史特殊講義(A)	岸 本	III・IV 前	明清社会経済史上の諸問題。
東洋史特殊講義(B)	窪 添	III・IV 後	北朝における漢人貴族のあり方について検討する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
東洋史特殊講義 (C)	佐 藤	Ⅲ・Ⅳ	9～19世紀のイスラム社会では、奴隷出身の軍人(マムルーク)が政治的・社会的に重要な役割を演じた。講義では、これらのマムルークの起源とその後発展を総合的にとり扱う。
東洋史特殊講義 (D) (共通科目・経済学特講 I)	川 勝	Ⅲ・Ⅳ	なぜ旧東洋文明の中核地域が第三世界に転落し、辺境地(西欧と日本)に近代工業文明が出現したのか、が主題。日本、西洋、東洋の枠をはずし、従来の方法論を批判しながら、新たな経済史像を論述。
西洋史特殊講義 (A)	平 野	Ⅲ・Ⅳ 前	世紀転換期アメリカの都市と農村の変容を考える。
西洋史特殊講義 (B)	山 本	Ⅲ・Ⅳ 後	ドイツ革命の諸問題。
西洋史特殊講義 (C)	堀 越	Ⅲ・Ⅳ	西洋中世後期。後期中世におけるヨーロッパ社会の持続と変容のさまを概観する。
日本史学演習 (A)	青 木	Ⅲ・Ⅳ	『続日本紀』の輪読。
日本史学演習 (B)	大 口	Ⅲ・Ⅳ	江戸時代史料の輪読。
日本史学演習 (C)	小 風	Ⅲ・Ⅳ	明治中期の政治と経済について考える。
日本史学演習 (D)	安 田	Ⅲ・Ⅳ	『勘仲記』の輪読。
東洋史学演習 (A)	窪 添	Ⅲ・Ⅳ	顧炎武の『日知録』を輪読する。
東洋史学演習 (B)	岸 本	Ⅲ・Ⅳ	いくつかの大きな主題を中心に論文を読み報告討論を行なう予定。
西洋史学演習 (A)	平 野	Ⅲ・Ⅳ	西洋史特講 (A) のテーマに関連した史料・研究文献を講読する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
西洋史学演習 (B)	山 本	Ⅲ・Ⅳ	前期は「歴史家論争」関係の論文を読む。後期は参加者がそれぞれテーマを選択して報告する。
古文書学	安 田	Ⅲ・Ⅳ 後	武家文書についての概観。
考古学通論	鷹 野	Ⅲ・Ⅳ	縄紋時代の文化と社会について。草創期から順を追ってみていく。
史跡調査	狩 野	Ⅲ・Ⅳ 後	日本の史跡の現状について概説し、あわせて近年の古代遺跡の調査成果にふれる。

地 理 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
地 理 学 概 論	式	Ⅳ 前	地理学における自然、人文、風土などの扱いを、各地域の調査研究事例にもとづいて検討し、地理学の本質と方法論上の特色を解説する。なおこの講義は地誌学をすでに受講した学生を対象とする。
地 理 学 概 説	内 藤	Ⅰ 前	居住・交通・資源利用・災害などを通して人間と環境との関係を明らかにし、地理学の立場と観点を述べる。
地 誌 学	式	Ⅲ 後	おもに日本における地誌の系譜をたどることによって、地誌学の発達過程を概観し、その上で地誌の様式、地域の記載方法、地域性の意義などについて述べる。
経 済 地 理 学 Ⅰ	内 藤	Ⅱ 後	産業立地の展開とそれを支えた諸条件、および産業立地が地域形成に果たした役割を考察する。産業構造の変化にともなう地域変化についても言及したい。
集 落 地 理 学	井 内	Ⅱ 前	現代の居住空間の構成要素である村落及び都市に関し、その立地、発達、機能、構造を概観し、さらに都市と農村の関係の現代的側面としての大都市圏の本質を述べる。
地 形 学 Ⅰ	式	Ⅱ 前	地形を系統的に理解できるよう、地形学の基礎的な概念、侵食・堆積営力、地形の成因的分類などを解説し、地形の環境的意義にもふれる。テキスト：式著「地形地理学」
地 質 学	浅 海	Ⅱ 前	岩石学・鉱物学・層位学・地史学・地下資源に関する最近の研究・調査例を引用し、地質学全般の基礎的理解をすすめる。
気 候 学 Ⅰ	田 宮	Ⅱ 前	地球スケールの大気現象である気候について、現在どのように考えられ、どのくらいまで解明されているかを紹介する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
地 図 学	鈴 木	Ⅰ 前	地図の概説、記号、投影法、主題図等、地図に関する基礎的知識について解説する。一部、地形図を用いた計測、地理学的判読の演習を伴う。
地 図 学 演 習	栗 原	Ⅰ 後	地理学的事象を地図的に表現するための基礎的演習。実習はかなりの作業を伴う。作業結果を提出すること。
地 理 学 演 習 Ⅳ	全 員	Ⅳ	卒業論文作成に関し、各指導教官によりわかれて演習がもたれるが、年3回程度の教官全員による合同ゼミがある。
地 理 学 巡 検	全 員	Ⅰ～Ⅲ	3年生対象に3泊4日(必須)、2年生対象に2泊3日(必須)、1年生対象に1泊2日(必須)の巡検の他に、各学年を対象に1日巡検(選択)が数回行われ、野外における観察、資料採集などの研究方法を現地指導によって習得させる。
日 本 地 誌 Ⅰ	内 藤	Ⅲ 前	北海道・東北地方を対象にして、自然環境と土地利用の特色、産業の発達と都市形成などを具体例をあげて講義する。
日 本 地 誌 Ⅱ	久 保	Ⅲ 後	自然環境と人間活動の係わりあい、特に災害、環境問題を中心とし、地域の特性に関して学習する。参考書：「空からみる日本の地形」岩波書店
外 国 地 誌 Ⅰ	栗 原	Ⅱ・Ⅲ 後	地中海地域の地域研究。農業問題、工業化と国家の役割、地域格差の形成、開発政策、人口移動、移民、観光業、地域主義、EC加盟のテーマを中心に講義。事例はスペイン、ギリシア、イタリア等。
外 国 地 誌 Ⅱ	高 橋	Ⅱ・Ⅲ 前	ヨーロッパのうち、とくにフランスの自然環境・人文環境そして地域構造の特性に関して講義する。参考書：高橋伸夫著「改訂版 フランスの都市」(二宮書店)

地理学科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
地理学演習Ⅰ	栗原	Ⅲ 前	R.D.Sack “Human territoriality” の輪読。後半は地理学巡検（7月実施予定）にあたっての文献・統計資料などを中心とした事前研究。（地理学科3年生は必修）
地理学演習Ⅰ	井内	Ⅲ 後	都市システムに関する研究論文の講読。
地理学演習Ⅱ	浅海	Ⅲ 前	自然地理学（主として地形・土壌・地質学に関する）の内外の論文・報文の輪読。
地理学演習Ⅱ	田宮	Ⅲ 後	気候学、気候誌に関連する内外の論文を読み、批判する。
地理学演習Ⅲ	式内藤	Ⅲ	内外の文献、資料をも加えて、地誌作成について研究する。テキスト：T.W. Randle：“Western Europe”，(Oliver & Boyd) 1986、前期：内藤、後期：式
歴史地理学	中島	Ⅱ・Ⅲ 前	日本の歴史地理を概説する。「歴史地理学」は歴史時代の事象を地理学の立場から研究するもので、「歴史と地理」ではない。教科書：矢守一彦編「空からみた歴史景観」（大明堂）
経済地理学Ⅱ	内藤	Ⅲ 前	わが国における工業地域の形成をあとづけながら、経済環境の変化および地域開発政策との関連、急速な工業化の社会的影響などを検討する。
都市地理学	井内	Ⅲ 後	1. 都市の地理学的研究の視点・方法 2. 都市システム研究の方法 3. 現代都市の諸問題を講ずる。
陸水海洋学	田宮	Ⅱ・Ⅲ 前	地球を覆い生命の維持に不可欠な水について、その地球上でのあり方に関する学問、陸水学と海洋学について概説する。

国文学科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
土壌地理学	浅海	Ⅲ 前	土壌の生成過程を理化学性の解明と生成因子の追求によって説明し、世界および日本の土壌分類・分布について論ずる。
地形学Ⅱ	式	Ⅱ 後	河川以外の地形形成営力および気候帯ごとに異なる地形の形成過程を考察し、地形と他の自然要素との関連を解説する。さらに地形分析、地形発達史など地形学の研究方法にふれる。
気候学Ⅱ	田宮	Ⅱ 後	様々なスケールの気候と人間の関係を、いくつかのテーマについて考察する。
写真地理学	滝沢	Ⅱ・Ⅲ 後	空中写真、宇宙画像に関する基礎的知識および写真判読・写真測量の方法を解説し、それらを利用した成果などを紹介し、その地理的分野への応用面にふれる。作業として、空中写真の実体視により写真判読を行う。
自然地理学実験Ⅰ	田宮	Ⅲ 前	気候を把握するために必要な観測およびデータの処理について、基礎的な測器を用いて実習する。
自然地理学実験Ⅱ	浅海	Ⅲ 後	土壌研究に関する野外観察・室内分析の方法実習。
地理調査法	栗原	Ⅲ 前	人文地理学における地域調査を、①地域調査の目的・意義、②文献調査、③統計資料・地図調査、④フィールド・サーヴェイの方法を中心に講義。実習を伴う。
計量地理学	高阪	Ⅱ・Ⅲ 後	計量地理学の主要分野の一つとして、小売システムの分析を取り上げ、小売センターの立地や消費者行動などに関連する基本的概念、分析法を概説する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
地理学特殊講義Ⅱ	大友	Ⅱ・Ⅲ 前	人口構造、人口動態（出生・死亡）、人口移動、人口分布などの人口地理学の各分野について概説する。
地理学特殊講義Ⅳ	宮口	Ⅱ・Ⅲ 後	日本の農山村地域がどんな性格を有しているかをその発展過程からとらえ、全体的性格と地域的多様性を示したい。西アジアの農村等、非日本的な地域にもふれたい。

国 文 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
上古中古日本文学史	岩崎	Ⅰ	古代日本文学の生成とその史的展開を概観する。
中世日本文学史	三木	Ⅲ	中世日本文学の史的展開を概観する。
近世日本文学史	堤	Ⅲ	近世日本文学の史的展開を概観する。本年はとくに元禄時代以降の文学を中心に検討する。
近代日本文学史	浅井	Ⅲ	近代日本文学の史的展開を概観する。
国語学概論	白藤	Ⅰ	国語学研究の諸分野について概観し、音声・音韻以下の各論を講ずる。教科書：築島裕著「国語学」（東大出版会）
国語法概説	市川	Ⅲ	日本文法の概説。
国語表現法	市川	Ⅲ	文章表現の理論と実際について考察し、文体論にも及ぶ。教科書：市川孝著「新訂文章表現法」（明治書院）
国文学講義講読Ⅰ	岩崎	Ⅱ	「万葉集」巻二を講読する。
国文学講義講読Ⅱ	平野	Ⅰ	源氏物語 帚木巻を読む。
国文学講義講読Ⅲ	小林	Ⅱ	「平家物語」を取り上げる。
国文学講義講読Ⅳ	堤 浅井	Ⅰ・Ⅱ	前期は近世の文学作品を、後期は近代文学の作品を取り上げて講読する。
国文学講義講読Ⅴ	大塚 国文 留学生	Ⅰ	上代から現代に至る日本文学の中から様々な作品を選び、時代や文化との関わりの中で読む。対象は留学生に限る。

梓学文園

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
国文学講義演習Ⅰ	岩 崎	Ⅲ	「万葉集」を扱い、上古文学研究のための基礎的演習を行う。
国文学講義演習Ⅱ	平 野	Ⅱ	古典文学を研究するための基礎的方法を学ぶ。写本の読解力をつける。テキストはプリントで配布する。
国文学講義演習Ⅲ	三 木	Ⅲ	『今昔物語集』の巻二十五、六、七の中から説話を適宜抄出し、考察を加える。
国文学講義演習Ⅳ	堤	Ⅲ	近世小説のうちより取り上げて、近世文学の基礎的研究の演習を行う。
国文学講義演習Ⅴ	浅 井	Ⅲ・Ⅳ	近代日本文学の作品について演習する。テキストは授業前に提示する。
国文学講義演習Ⅵ	大 塚	Ⅲ・Ⅳ	主に大正、昭和の日本文学をとりあげ、研究方法を模索する。作品、作家については授業の中で決定することとする。
国語学講義演習Ⅰ	白 藤	Ⅲ	源為憲撰「世俗諺文」の訓読・注釈を行い、併せて中古語を研究する。
国語学講義演習Ⅱ	市 川	Ⅱ	語誌の実証的考察。
国文学特殊講義Ⅰ	岩 崎	Ⅲ・Ⅳ	「古事記」の構造・特質を考える。本年度はヤマトタケルの伝説を中心にとりあげる。
国文学特殊講義Ⅱ	中 野	Ⅲ・Ⅳ	『源氏物語』『宇治十帖』の始発の巻「橋姫」を読み進めながら、物語の構造・方法・表現等について考える。 教科書：「校注源氏物語橋姫」（武蔵野書院刊）
国文学特殊講義Ⅲ	平 野	Ⅲ	勅撰集と私家集から作品を選び、中古文学研究の基礎を学ぶ。国文学講義演習Ⅱを履修済みのこと。

学語國中・学文國中 梓学文園

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
国文学特殊講義Ⅳ	西 野	Ⅲ・Ⅳ	中世を鮮やかにうつつし出す能。和漢の故事、物語、軍記、説話、当時の巷説ほか能の描く世界は広い。素材・構造・文体などを検討しつつ、その詩的文学性など能の表現について考察する。プリント配布。
国文学特殊講義Ⅴ	小 池	Ⅲ・Ⅳ	黄表紙から合巻へ。絵と文が相乗の効果をあげて、さまざまな笑いやうがちを楽しませる戯作絵本（黄表紙・合巻）を具体的に分析しながら、絵と文のしかけとおかしさを考えてみたい。
国文学特殊講義Ⅵ	柴 田	Ⅲ・Ⅳ	日本書誌学。我が国の古典籍（図書・文書）はどのように作られ、読まれ、保存され、伝来し研究されてきたかについて。参考書：長澤規矩也「古書のはなし」（富山房）・同「図解書誌学入門」（汲古書院）
国文学特殊講義Ⅶ	大 塚	Ⅲ・Ⅳ	日本近代詩史を本年は昭和詩に関して行う。テキストは授業の中で指示する。
国語学特殊講義Ⅰ	金 田	Ⅲ・Ⅳ	江戸初期東国語資料である『雑兵物語』について、その諸本の紹介と、そこにみられる言語と江戸語とのかかわりについて検討する。教科書：雑兵物語（桜楓社）

外国文学科 中国文学・中国語学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
中国語学演習Ⅰ	相原	I	中国語入門 発音からはじめ、中国語の基本文型、文法事項、基礎語彙などを耳と口の訓練を通して習得する。テキスト：『实用漢語課本』（北京語言学院編）
中国語学演習Ⅱ	相原	I	同上
中国語学演習Ⅲ	狄	I	中国語初級 発音・文法・語彙の学習を通じて中国語の総合的力を養う。聞く・話す・読む・書く能力の厳格な訓練を行い、中国語学習のための基礎を作る。テキスト：『实用漢語課本』（北京語言学院編）
中国文芸思想史	森	I・II	中国前近代のユートピア思想について歴史的に考えてみたい。1. 諸子思想における共生のユートピア、2. 宗教運動や道教の身体論における信仰のユートピア、3. 仙境表象にみられる風景のユートピア。
中国文学史Ⅰ	佐藤	I	中国の古典文学について、その歴史的な流れを通覧する。テキストを使用するが、資料は別にプリント等で配布する。テキスト：『中国文学史』東大出版会 ¥2,400
中国文学史Ⅱ	益屋	II・III	「当代文学研究」 当代文学における50年代の意味を考察する。教科書はとくに指定しない。必要に応じて指示し、またプリントを配布する。後期には若干演習形式をも導入する。
中国文学講義演習	藤山	I	漢文訓読の習熟を目的とし、併せて中国の古典を学習するための基礎的知識を学ぶ。テキストは授業時にコピーを配布する。

外国文学科 英文学・英語学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
中国文学演習	藤山	II	『史記』孔子世家によって孔子の生涯をたどりながら、その中に出てくる『論語』の言葉を『論語注疏』によって読む。テキスト：『孔子と「論語」』（森野繁夫編）白帝社 ¥1,200
中国文学講義講読Ⅰ	宮尾	II	「文体研究」 様々なジャンルの現代文学作品を読み、現代語の読解力を養うとともに、現代文学史の基礎を学ぶ。テキストはコピーを配布する。
中国文学講義講読Ⅴ	佐藤	III・IV	「古典詩研究」 中国古典詩を読むための基礎的な知識について講義すると同時に、読解の方法を訓練する。テキストは授業時に指示する。
中国文学特殊講義Ⅰ	宮尾	III・IV	「現代詩研究」 『新月詩選』から作品を選んで読む。最初の数回は概説にあて、以後は受講者の報告を求める。『新月詩選』（中国現代文学史参考資料、上海書店）を各自用意するのが望ましい。
中国語学演習	相原	II	「語彙研究」 現代の短篇小説を精読しながら、あわせて語学的な眼をも養ってゆく。テキスト：『ゆりの花』（木村、中川編）白帝社 ¥1,200
中国語学概論	相原	III・IV	「文法研究」 現代中国語の発音・語彙・文法に関する主要な問題について考える。各テーマについて代表的論文を紹介し、講読することも行ってゆく。
中国語作文Ⅰ	小島	III・IV	二年次では『中国語作文』を使い、中国語の基本文型を学習した。三・四年次ではその応用として、物語・小説に材をとり、長い文型の翻訳能力の涵養に努めたい。

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
中国語会話Ⅰ	狄 Ⅱ		中国語の基礎文法及び 500前後の常用語の習得をめざし、同時に会話能力を高めるための厳格な訓練を行う。 テキスト：『新中国語』3 (北京語言学院編) 中華書店 ¥1,200
中国語会話Ⅱ	狄 Ⅲ・Ⅳ		中国の社会生活、名所旧跡、文学芸術、歴史地理、政治経済などを教材として関連ある語句を学び、これらを話題にして会話を行う能力を高める。 テキスト：『实用漢語課本』第三冊

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
英文学演習Ⅰ	野 島 Ⅰ		Jane Austen の <i>Sense and Sensibility</i> を読む。テキストは Penguin版、英文研究室で購入できる。
英文学演習Ⅱ	松 崎 Ⅰ		Annie Dillard の <i>Pilgrim at Tinker Creek</i> ほかを読む。教科書：前期はプリントを使用。後期は追って指示する。
英文学演習Ⅲ	松 崎 Ⅱ		Milton の <i>Comus</i> を読む。教科書：J.B. Broadbent ed.: <i>Odes, Pastorals, Masques</i> (Cambridge Univ. Pr.)
英文学演習Ⅳ	酒 本 Ⅱ		昨年の古典に引きつづき今年は現代の短編小説を読む。できる限り多様な作家に触れて読解力を養ってほしい。 テキスト：Contemporary American Short Stories (成美堂、¥950)
英文学演習Ⅴ	海老根 Ⅲ		John Updike : <i>The Witches of Eastwick</i> (Penguin Books) 研究室で購入。 (英米文学専攻者を対象とする。)
英米文学講義Ⅰa	野 島 Ⅲ		D.H.Lawrence の "The Man Who Loved the Island," "The Man Who is Through with the World," <i>The Man Who Died</i> を読んで、後期のロレンスの本質の一面を探る。テキストはプリントを使用。
英米文学講義Ⅰb	今 西 Ⅲ		(英語学専攻者を対象とする。) 動詞句の内部構造を研究するため、動詞の示す統語的・意味的特徴について、いくつかの論文を読みながら考察する。
英文学演習Ⅵ	酒 本 Ⅳ		Melville: <i>Bartleby and Other Stories</i> (開文社、¥800) 前期用の予定。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
英米文学講義Ⅱ a	野 島	Ⅳ	(英米文学専攻者を対象とする。) Alexander PopeのThe Rape of the Lockを読む。テキストはPoems of A. Pope (研究社小英文叢書、¥880)。
英米文学講義Ⅱ b	今 西 (前) 宮 川 (後)	Ⅳ	(英語学専攻者を対象とする。) 前期はMcCawley (1988) The Syntactic Phenomena of English vol.2 (Chicago University Press) を使って統語構造分析を学ぶ。 後期: The Authorized Version of the Bible(「創世記」と「マタイ伝」)
英文学演習 (他学科対象)	内 田	Ⅰ～Ⅳ	Charlotte Brontë: Shirley (1849) (Oxford: The World's Classics) を読む。同じころのあるいは同じような問題を扱ったほかの小説と読みくらべる。
英文法演習	今 西	Ⅰ	Huddleston (1988) English Grammar: an outline (Cambridge University Press) を使って英語の統語構造について考察する。
英文法演習 (他学科対象)	馬 場	Ⅰ・Ⅱ	使用テキスト: G. Leech et al.: English Grammar for Today (Macmillan)
英作文演習Ⅰ (前) 宮 川 (後)	西 尾	Ⅰ	前期は英語の総合的能力をつけることを目的とする。Paragraph Power (Prentice-Hall), World Events '89 (金星堂)、Listening Tasks (Cambridge University Press) 後期: Paul McLean, Writing Everyday English. マクミラン・ランゲージハウス ¥1,500 (英文科1年生のみを対象とする。)
英作文演習 (他学科対象)	岩 倉	Ⅰ・Ⅱ	自分の考えを正確に伝える表現力を養うための演習を行う。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
英作文演習Ⅱ	ルイス	Ⅱ	1年次の教科書をひき続き使う。
英語表現学	西 尾	Ⅲ	英語の総合的能力をつけると同時に、論文の書き方について学ぶ。Coffey: Communication through Writing (Prentice-Hall) (英文科3年生のみを対象とする。)
英会話演習Ⅰ	ルイス	Ⅰ	PERSON TO PERSON BOOK 2 (OXFORD UNIVERSITY PRESS)
英会話演習Ⅱ	ルイス	Ⅱ	EAST・WEST STUDENT BOOK 2 (OXFORD UNIVERSITY PRESS)
英文学史Ⅰ	野 島	Ⅱ	英文研究室で作成したアンソロジーをテキストとして講義をすすめる。なお副読本として、斎藤勇『英文学史概説』(研究社、¥2,000)を使う。
英文学史Ⅱ	野 島	Ⅲ	前年度と同じテキストにより、Chaucerから18世紀末までの文学史の流れを追う。
アメリカ文学史	海老根	Ⅱ	『新アメリカ文学史』(学書房¥1,800)(社会と文学)
英文学特講Ⅰ	上 島	Ⅲ・Ⅳ	イギリスロマン派研究。イギリスロマン主義を代表する6人の詩人の作品を講読、鑑賞する。テキスト: 上島編注『ロマン派詩選』(研究社小英文叢書)
英文学特講Ⅱ	佐 藤	Ⅲ・Ⅳ	建国から南北戦争までのアメリカ女性作家の作品を、その時代背景とともに考察する。教科書: 随時プリント使用。
英文学特講Ⅲ	海老根	Ⅲ・Ⅳ	「ロスト・ジェネレーションの文学」ヘミングウェイ、フィッツジェラルドを中心に、時代、モダニズム、美、文章等幾つかのポイントからなるべく作品に即し講義する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
英語学概論	宮川 (前) 今西 (後)	Ⅱ	前期: Philip L. Gerber, <i>The Growth of English.</i> (成美堂、¥1,800) 後期: Radford (1988) <i>Transformational Grammar: A First Course</i> (Cambridge University Press) を使って生成文法理論及びそれに基づいた統語分析について考察する。(英文科2年生のみを対象とする。)
英語学特講Ⅱ	宮川	Ⅲ・Ⅳ	現代英語学の諸論文を読む。
英語学特講Ⅲ	千葉	Ⅲ・Ⅳ	「一般的原則とパラメータによる言語理論」の枠組を通して、文法とは何かを理解するのがねらい。Chomsky(1981, 1986)等をテキストとして使う。
英語音声学Ⅰ	宮川	Ⅰ 前	おもに講義形式で英語音声学の基礎理論を扱う。テキスト未定。
英語音声学Ⅱ	西尾	Ⅰ 後	Whattaya Mean? (Language Services) 『マザーグース童謡集』(北星堂) (英文科1年生のみを対象とする。)
英米事情	湊	Ⅲ・Ⅳ	Henry Commager: <i>American Government</i> (英潮社新社、¥580)。放送大学教材「アメリカ論Ⅰ」(¥1,300)。なお数冊を追加予定。読書とビデオを通じて、現代アメリカの包括的な理解を目指す。

外国文学科 仏文学・仏語学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
フランス語演習Ⅰ	石川	Ⅰ	朝倉フランス語<<文法>>(白水社、¥950)を教科書に初級文法を学ぶ。
フランス語演習Ⅱ	石川	Ⅰ	同上
フランス語演習Ⅲ	中村 (俊)	Ⅰ	朝倉フランス語<<読本>>(白水社、¥1,200)
フランス語演習Ⅳ	滝野	Ⅰ	“C'est le Printemps” 1と“Entrée” Libre” 1を使って、会話練習を行う。
フランス語演習Ⅴ	滝野	Ⅰ	同上
仏会話演習Ⅰ	滝野	Ⅱ	未定
仏会話演習Ⅱ	滝野	Ⅲ~Ⅳ	QUENEAU: <<Le dimanche de la vie>>(FOLIO)(テキストは研究室で用意。)
仏文学演習Ⅰ	中川	Ⅱ	一年次後半に使用したテキストを続けて読む。後期は教室で指示する。
仏文学演習Ⅱ	中村 (弓)	Ⅲ~Ⅳ	ランボー研究。古賀・中安編『地獄の一季節・イリュミネーション』(芸林書房)を用いる。研究室で販売。
仏文学演習Ⅳ	石井	Ⅲ~Ⅳ	田園生活情景の一つであるLe Lys dans la vallée(『谷間の百合』)を、Balzacの生涯、政治的・文学的時代相、特に語又は文・情況の繰り返しによる虚構世界の創出という点に注意しながら読み進める。2年間で冒頭と結末部を読む予定。テキストにはFolio版を使用(研究室で用意)。

教育学科 教育学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教育研究入門	全教官	I 前	教育学コースの全教官が、それぞれの専門的な立場から、教育学を学ぶ視点・方法について述べ、教育学研究の手引きを行う。
教育哲学概論	上野	I	教育を考え研究するための基本的諸概念や定義および研究方法について具体的問題をもとにして概説する。
教育史学概論	寺崎	II~IV	さまざまな場における教育という人間の関係行為、それを歴史的・構造的に把握する方法論を問いつつ、近代教育関係構造史の概観を提示すべく努める。
教育社会学概論	耳塚	II~IV	教育社会学の中心的課題である、現代学校の社会化、選抜・配分機能について概説する。ミクロ（教育過程）-ミドル（学校組織、制度）-マクロ（社会構造）の視点から、学校の社会的機能を捉える。
教育行政学概論	森	II~IV 前	教育行政上の問題を個別的にデュアル思考で検討し、総論に及ぶ。毎時間、夫々に異なる二つの概念を通して、教育問題の理論的背景を掘下げる。 教科書：森「現代の教育行政」（協同出版）、森編「学校小六法」（協同出版）
教育行政学概論	高倉	II~IV 後	教育法規を手がかりにして、教育行政および教育財政の理念、作用の特質、制度とその運用などを明らかにする。比較教育学的な視点にも十分配慮する。テキスト等は後程指示する。
教育方法学概論	宮原	II~IV	近代の教育方法・教育課程の歴史を概観する。基本的な文献を読みながら、教育方法・教育課程の基本（鍵）概念を明らかにする。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
社会教育学概論	小川(剛)	II~IV	わが国の社会教育の実態をふまえ、さらに比較教育的視点に立って、社会教育の概念・歴史・政策などについて述べる。
博物館学概論	鷹野	II・III	博物館の目的、定義、歴史、法規、資料活動などについて講義する。
教育哲学講義演習	上野	III・IV 前	知育とは何かについて文献講読と討論を通して考える。（後期とあわせて受講すること）。
教育哲学講義演習	岩本	III・IV 後	D.Rubinstein, "Education and Equality" (1980)の講読を通じて、発達と教育、学校教育の自律性の問題等を考察する。なお、同書に取り組むにあたり、M.Apple, "Ideology and Curriculum" (邦訳)の検討を試みたい。
教育史学講義演習	寺崎	III・IV	ヨーロッパにおける「子どもの権利」概念の生成を跡づけるべく、広い意味での教育思想史の読み直しを諸テキストに即して行う。諸テキストについては、検討する断片のコピーを逐次配布する。
教育社会学講義演習	耳塚	III・IV	Karabel & Halsey (潮木他編訳)『教育と社会変動 上・下巻』（東大出版会）を中心に、教育社会学の基本文献を読む。（なお、原則として教育社会学概論の既修者ないし併修者に、参加者を限定したい。）
教育行政学講義演習	森	III・IV	「教育システム論」、学校・家庭・社会の関連を教育の「原点」と「重点」に分け、問題別、領域別、観点別に検討する。
教育方法学講義演習	宮原	III・IV	具体的な教科（今年度は社会科と国語科）、教材教具に則して、カリキュラム構成の原理や方法について考察する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教育課程講義演習	今 野	Ⅲ・Ⅳ	教育課程論に関する基礎的研究。改革問題や実践的課題にも焦点づけたい。 参考書：今野喜清著「教育課程論」(第一法規刊)
社会教育学講義演習	小 川 (剛)	Ⅲ・Ⅳ	社会教育の基本問題を取りあげ、文献講読、見学、レポート作成など多様な方法で学ぶ。
社会教育計画Ⅱ	杉 村	Ⅲ・Ⅳ 前	社会教育法制下の社会教育、国民の自己教育・相互教育と助成行政、社会教育の編成原理と方法、「生涯教育」と社会教育の課題など、社会教育計画にふまえられるべき基本的視点について概説する。
社会教育特講Ⅰ	田 中	Ⅲ・Ⅳ 前	人はさまざまな学習・教育の結果「一人前」になる。学校教育はそうした教育過程の一部でしかない。近代的学校を持たない社会で人はいかにして一人前になるのかを見ながら、教育とは何かを考える。
社会教育特講Ⅱ	小 川 (剛)	Ⅲ・Ⅳ	公民館・図書館・博物館・社会体育施設など各種の社会教育施設の機能・役割を理論的・実践的に述べる。
社会教育特講Ⅲ	鷹 野	Ⅲ・Ⅳ 後	文化財の保護について、歴史、制度、行政、各国の状況などをみる。
社会教育課題研究	小 川 (剛)	Ⅱ～Ⅳ	社会教育にかんする理論的・実践的なテーマを選びレポートを作成する。具体的内容については、社会教育学概論の当初にオリエンテーションする。
社会教育実習	小 川 (剛)	Ⅱ～Ⅳ	社会教育の現場において、さまざまな社会教育活動の実施にかかわり、体験を積む。具体的内容については、同上。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教育学特殊講義Ⅳ	阿 部	Ⅱ～Ⅳ 後	<中国の近代教育と明治日本>20世紀初頭の中国教育の近代化過程と日本とのかわりを、(1)清末中国の教育改革と「日本モデル」(2)中国人の日本留学、および(3)お雇い日本人教習の活動、の三点を中心に考察する。教科書使用の予定。
教育学特殊講義Ⅴ	平 田	Ⅱ～Ⅳ 前	生活指導・教育相談・カウンセリングの時代的変遷・現在の状況をふまえた上で問題行動とよばれがちな行動で自己表現する児童・生徒の理解につとめる。
博物館実習Ⅰ	鷹 野	Ⅳ・前	博物館の見学をおこなう。具体的ことは、ガイダンスおよび掲示によって指示する。
博物館実習Ⅱ	鷹 野	Ⅳ・前	博物館学概論の既習者に限る。休暇中に学内実習と博物館での実務実習をおこなう。

教育学科 心理学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
心理学概論	藤永	I	心理学についての一般的イメージの特徴を究明することにより、その学問的性格を検討し、それらがどんな経過をへて現代の体系に結びついていくかを概観する。 藤永保「現代心理学」(筑摩書房)
数理統計学講義演習	石口	I	前期：コンピュータ・プログラミングの基礎、後期：推論統計学の基礎
心理学講義演習 I	内田	I	前期：ヘップ『行動学入門』(紀伊国屋書店)、後期：ミード『精神・自我・社会』(青木書店)を講読し、討論することにより、心理学理論の展開の基礎を理解すると共に、講義演習形式に慣れる。
実験心理学演習 I	内藤 石口	II	心理学の実験の諸手法、及び実験結果の分析の諸手法についてさまざまな角度から実習する。
実験心理学演習 II	須賀 内田 石口	III	心理学実験の基礎的技法、実験計画、統計的処理などに習熟するため、小グループに分かれて、問題の探索から始めて実際の研究までを行う。心理学実験演習 I の既習者に限る。
精神測定学	内藤	II	心理学で用いられる統計的方法について概説する。既に統計学の基本的概念を習得していることが望ましい。
心理学講義演習 II	内藤	II	社会化をテーマとして、小グループに分かれ討論する。
教育心理学	須賀	II・III	ヒトの(種特異的および個人的)特性の心理学理論を模索し、その理論的枠組から教育の諸現象を理解することを試みる。 参考書：須賀「理論心理学アドベンチャー」新曜社 1989

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
人格心理学	春日	II~IV 前	人格の発達に関する基本的理論について学び、人間行動と精神病理、治療モデル等について考える。
人格心理学	坂野	II~IV 後	環境への適応や行動変容について考え、臨床事例の検討を行うなかで、人格とは何かを明らかにする。また、人格の形成と変容に影響を及ぼす要因とその効果について考える。
発達心理学	藤永	II・III	現代発達心理学の学問的性格、中心問題とその動向などについて概観する。 参考書：藤永保「発達の心理学」(岩波新書)、同「知性をはぐくむ」(有斐閣)
心理学講義演習 III	春日	III	人格・適応・精神病理の諸問題について、文献の講読・討議を中心に考える。
視聴覚教育	浜野	II~IV	前期：教育メディア、特にコンピュータや新しい電気通信メディアについて利用のあり方を具体的に考察する。後期：ビデオ教材の作成を通じ、映像や音声などの教育シンボル・システムを検討する。
言語心理学	内田	III・IV	I. 言語獲得の過程、II. 言語の生物学的基礎、III. 言語と認識の関わりを柱に、最近の言語心理学、並びに言語に関わる認知心理学的研究の動向について解説する。
認知心理学	石口	II・III	前期：感覚・知覚過程 後期：記憶・思考・情動など
生理心理学	池上	II~IV	記憶、動機づけ、認知、発達、老化などの精神現象の生物学的基礎には、脳の機能が重要な役割を果たしている。このような「脳と行動」の生物学的機構について、最近の研究を中心に平易に解説する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
舞踊教育学実習ⅢA	片岡	Ⅲ 後	舞踊構成法。舞踊の時間的・空間的構成法について学習し、作品のまとめ方（小グループと群舞を中心に）について課題制作を行う。
舞踊教育学実習ⅢB	片岡 石黒	Ⅳ 前	舞台上演法。舞台製作に関連する諸演出（音楽、美術、照明）の研究と舞台での作品上演。
舞踊学実習ⅡA	片岡	Ⅰ～Ⅳ 後	モダンダンス中級。正しい身体の動かし方を理解し、動きの質との関連で身体表現技術を習得する。
舞踊学実習ⅢB	遠藤	Ⅰ～Ⅳ 前	クラシックバレエの基礎訓練を次の要領で実習する。 1. ストレッチング 2. パーエクスサイズ 3. センターエクササイズ
舞踊伴奏法Ⅱ	柳沼	Ⅱ	「リズム・ムービング」— 身体の動きや様々な音の創造と体験の表現活動— により、個々の感性と創造性を高め、音と動きの融合及び総合表現の可能性をさぐる。
遊戯学概論	加賀 石黒	Ⅰ 前	丹羽助昭 編著：遊戯と運動文化、道利書院、昭54、を教材として、遊戯と身体活動の関係を考える。（前半）舞踊の遊戯性について論じる。（後半）
遊戯学実験演習	加賀	Ⅲ 前	身体運動による自己表現とその理解に関する実験心理学的接近法についての論文の検討と実習を行う。また、新しい身体遊戯ないしスポーツの開発を試みる。
遊戯学実験演習	石黒	Ⅲ 後	舞踊を「見る」側からの資料収集と分析法について学ぶ。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
運動美学	石黒	Ⅱ 前	バレエ、モダンダンスの美的特質をコミュニケーションの視点から論ずる。
動作学概論	森下	Ⅰ 前	日常的な立居振舞からスポーツ・舞踊にわたるヒトの姿勢や動作について人文科学的、自然科学的の両側面から概説する。
動作学実験	森下	Ⅲ 前	身体活動や情動にともなう、身体諸反応について実験技術を実習し、科学的認識を深める。
動作学実験	大道	Ⅲ 後	運動・動作を客観的に記述するための手法について概観し、日常生活や芸能、スポーツ場面に具体例を求めて実験・測定技術を習得する。
体育学原理	細江	Ⅱ 前	人間と運動との関わりの視点から、体育とは何か、その意義や機能について論じる。
運動学特講	森下	Ⅰ 後	身体表出、身体表現にかかわる科学的基礎について論じる。
体育心理学Ⅰ	加賀	Ⅰ～Ⅳ 前	体育心理学の歴史と諸分野を概観し、運動技能の獲得と、それに関与する諸要因について、簡単な実験の供覧や実習をまじえて検討する。テキスト：「新・運動心理学入門」（大修館書店）
体育心理学Ⅱ	加賀	Ⅰ～Ⅳ 後	体育活動とパーソナリティ、運動集団の心理と適応、体育嫌い、スポーツとあがり、などの諸問題について、簡単な実習をまじえて検討する。テキスト：末利博他編「スポーツの心理学」（福村出版）
解剖学	森下	Ⅱ 前	人体の骨格および筋肉の構造を動作や発育との関連において述べる。

舞踊教育学科 音楽教育学

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
西洋音楽史概説	大宮 芦川	I 前後	教科書 Grout : A history of Western music. (N. I. : Norton, 4/1988) ; ヴァン・エス「西洋音楽史」(新時代社)(一括購入)。前期:西洋音楽史の主要点を概説。後期:Grout のテキストによる演習。
音楽学概説	大宮	II	教科書 ラルー、大宮「スタイル・アナリス」2巻(一括購入) 第1-8章まで講述。
音楽美学特講II	大宮	I~IV 前	教科書 ラルー、大宮「スタイル・アナリス」2巻(一括購入) 第10章 曲の一般的なシェイプについて講述。
音楽史特講III	未定	I~IV 後期	未定
音楽理論	芦川 佐野	II 前後	和声分析論。主として古典派・ロマン派のピアノ曲を対象とし、実習を行う。さらに近代和声にも可能な限り言及したい。西洋音楽関係の卒業論文を予定する者は2年次履習のこと。(3年次以上の未習者を含む) 通年2単位。
音楽教育学概説	徳丸	II	人間の音楽学習の研究。柴田・徳丸編「民族音楽」(放送大学、1987)とラドシー・ボイル(徳丸他訳)「音楽行動の心理学」(音楽之友社、1985)。
民族音楽学特講I	徳丸	III・IV	民族音楽学ゼミナール。大量の日本語の文献を指定し、討論の材料とする。成績は討論の参加、レポート、発表会で決める。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
日本音楽史特講	八田	II~IV 前	地歌・箏曲の実習を通して、日本音楽の特性を学ぶ。テキスト、楽譜はその都度指示する。
民族音楽学特講III	八田	II~IV 後	地歌・箏曲の実習を通して、日本音楽の特性を学ぶ。テキスト、楽譜はその都度指示する。
ピアノI・講義演習	遠藤	I	基礎奏法の研究を主体としたピアノ音楽の研究。(前期・古典派、後期・ロマン派)
ピアノII A	遠藤 井上 岡部	II 前	ピアノIを修得したものを対象とし、より一層の技術的・音楽的向上をめざそうとするものである。
ピアノII B		II 後	ピアノII Aよりの継続研究で、ロマン派の作品を中心に実習する。
ピアノIII A B		III	古典から現代にいたる各様式のピアノ作品を、数多く研究させる。必修課題として、ベートーヴェン後期ピアノ・ソナタから一曲を課す。十分な基礎能力を有するものを対象とする。公開演奏を課す。
ピアノIV A B		IV	音楽史上の各様式のピアノ作品を研究、発展させる。卒業演奏をおこなうこと。
ピアノ作品研究III	遠藤 酒井	II~IV	ピアノゼミナール。20世紀のピアノ作品研究。(昭和63年度からの継続研究。ピアノ専攻者は必修)
声楽I・講義演習	林	I	音楽基礎、呼吸法、歌唱法講義。演習。(コンコーネ、簡単なイタリア、日本歌曲)
声楽II A	林	II 前	ベルカント唱法、イタリア歌曲の研究。
声楽II B	林	II 後	ドイツ・フランス歌曲の研究。

文教育学部 共通科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
法 学 特 講	広 渡	Ⅱ～Ⅳ	「現代日本社会の法 — その比較論的検討」というテーマで、いくつかの具体的問題を取りあげて考察する。「戦争責任」「天皇制」「労働と企業の関係」「国民把握のシステム」「都市と土地」などをとりあげる予定。
政 治 学 特 講	平 石	Ⅱ～Ⅳ	「政治」をめぐる基本的な語彙について日本・中国・西欧などの各地域に即して比較の視点から概説する。「マツリゴト」「政教一致」「ポリス」「立憲主義」等々が扱われる。
経 済 学 特 講 I (史学科・東洋史特殊 講義(D))	川 勝	Ⅱ～Ⅳ	なぜ旧東洋文明の中核地域が第三世界に転落し、辺境の地(西欧と日本)に近代工業文明が出現したのか、が主題。日本、西洋、東洋の枠をはずし、従来の方法論を批判しながら、新たな経済史像を論述。
経 済 学 特 講 II	桜 井	Ⅱ～Ⅳ 前	社会科学としての経済学の方法について検討する。マルクス経済学の方法を中心に学んでいくつもりだが、周辺領域についてもあわせて検討する予定。テキストは定めないが、参考書は適宜指示する。
	伊 藤	Ⅱ～Ⅳ 後	消費者行動の理論を学んだ後、その応用として、わが国における家計消費の構造がどのように推移してきたかについての実証分析を試みる。参考書等については授業中適宜指示する。 (通年履修)
社 会 学 特 講 I (哲学科・社会学特殊 講義 I)	米 村	Ⅱ～Ⅳ	家族社会学とのかかわりにおいて、ヨーロッパ家族史研究について講義する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
社 会 学 特 講 II (哲学科・社会調査)	山 崎	Ⅱ～Ⅳ	社会調査論、社会調査の計画と過程、データ収集の技法、調査結果の整理とまとめ、等について講義をし、これらと並行してテーマを決めて社会調査の全過程にかかわっての実習を行う。
文化人類学特殊講義	上 野	Ⅱ～Ⅳ 前	日本社会の理解にあたって親族組織は基礎的な社会組織のひとつとして、きわめて重要である。この講義では同族と親類を中心にしながら、日本の複雑な親族組織がこれまでどのように理解されてきたかを明らかにしたい。
文化人類学特殊講義	田 中	Ⅱ～Ⅳ 後	婚姻の問題について人類学の分野でどのような理論が提示されてきたのか概観する。
文化人類学講義演習	田 中	Ⅲ・Ⅳ	ジェンダー(文化的に規定された性差)の問題を人類学はどのように扱ってきたのか、代表的論文をいくつか読みながら討議を中心に考える。
情 報 学 特 講	久 保	Ⅰ～Ⅳ 後	地理情報システム(GIS)は地理学、都市計画、環境管理等で利用され始めた新技術で、注目を集めている。GISの原理、利用方法について学習する。 教科書:「コンピュータマッピング入門」 日本経済新聞社
情報学講義演習	久 保	Ⅰ～Ⅳ 前	人工衛星から地球を観測するリモートセンシングは地理学など地球科学の重要なデータ取得方法である。基本原理を学習し、情報処理センターのイメージ処理装置を用いての実習、施設見学などを行う。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
言語学概論	菊地	Ⅲ～Ⅳ	言語学の各分野について紹介する。主として日本語・英語を題材に、できるだけ平明に解説し、言葉への興味を深めてもらえるように心がけたい。教科書は使わない予定。
ギリシャ語初級	片山	Ⅱ～Ⅳ	古典ギリシャ語の基礎文法を修得する。教科書：田中美知太郎・松平千秋「ギリシア語入門 改訂版」(岩波全書)
ラテン語上級	片山	Ⅱ～Ⅳ	基礎文法終了者を対象に、キケローの書簡集 (Epistulae ad familiares) を用いて、ラテン散文読解の練習を行う。
独文学演習	杉本	Ⅲ・Ⅳ	G.ケラーの「村のロメオとユリア」他を講読する。(テキストは研究室で用意する)
仏文学演習	中村	Ⅲ～Ⅳ	ポール・ヴァレリーの「対話篇」の一つである『魂と舞踊』を講読する。テキストは研究室でコピーを配布する。
特別外国語 (イタリア語)	河島	Ⅰ～Ⅳ	イタリア語の初歩。教科書は最初の授業で指示。

人文科学研究科 哲学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
哲学特論Ⅰ	吉田	Ⅰ・Ⅱ	存在論と集合論との関係について論ずる。
哲学特論Ⅱ	土屋	Ⅰ・Ⅱ	アリストテレスの存在論の研究。
哲学演習Ⅰ	吉田 土屋	Ⅰ・Ⅱ	現代哲学の諸問題を、いくつかの論文を通して研究する。
哲学演習Ⅱ	土屋	Ⅰ・Ⅱ	ウィトゲンシュタイン哲学研究。
倫理学特論Ⅰ	高島	Ⅰ・Ⅱ	日本中世倫理思想史の諸問題。『徒然草』等を読む。テキストは、授業のはじめに指定する。
倫理学演習Ⅰ	高島	Ⅰ・Ⅱ	日本近世倫理思想史の諸問題。本居宣長をとおして国学を考える。テキストは、授業のはじめに指定する。
倫理学演習Ⅱ	尾田	Ⅰ・Ⅱ	カント倫理学方法論研究。
美学特論	辻	Ⅰ・Ⅱ	未定
美学演習	辻	Ⅰ・Ⅱ	主要なテーマを討論によって決め、それに従って研究発表を行う。
社会学特論Ⅰ	宮島 前	Ⅰ・Ⅱ	文化的再生産論の検討。Bourdieu & Passeron, La Reproduction を読みながら、考察、討議を行う。英訳コピーを配布の予定。
社会学特論Ⅱ	江原	Ⅰ～Ⅱ	現代社会理論に関連した論文を読む。論文は授業開始後、指示する。
社会学演習	米村	Ⅰ・Ⅱ	アパラチアの移住と各自の関心を中心に文献を割当て講読する。

人文科学研究科 史学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
日本史学特論Ⅰ	小 風	I・II	19世紀の東アジアと日本。
日本史学特論Ⅱ	安 田	I・II	中世後期社会の諸問題。
日本史学演習Ⅰ	青 木	I・II	『令集解』の輪読。
日本史学演習Ⅱ	大 口	I・II	幕藩体制史の諸問題。
日本史学演習Ⅲ		I・II	未 定
東洋史学特論Ⅰ	岸 本	I・II	清代社会経済史料の輪読。
東洋史学演習Ⅰ	窪 添	I・II	北朝の墓誌を選読する。
西洋史学特論Ⅰ	平 野	I・II	19世紀アメリカ史の文献の講読。最近の研究動向をさぐる。
西洋史学演習Ⅰ	山 本	I・II	ヨーロッパ近現代史について、参加者の報告を中心にして議論する。

人文科学研究科 地理学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
人文地理学特論Ⅰ	井 内	I・II 前	人文地理学の方法を、大都市問題に拠り考察する。
人文地理学特論Ⅲ	栗 原	I・II 前	地理学説史研究の方法に関する基本的文献の輪読。とくに、19世紀後半の近代地理学の制度的確立過程に焦点をあてる。
人文地理学演習Ⅰ	井 内	I・II 後	学生の研究主題の共同研究。
人文地理学演習Ⅱ	栗 原	I・II 後	受講者の研究テーマを中心に共同研究。
人文地理学特論Ⅴ	未 定	I・II 後	未 定
野 外 調 査 Ⅰ	井 内 栗 原	I・II	北関東の国立公園における環境保全と開発の現状を調査する。
自然地理学特論Ⅰ	浅 海	I・II 前	地形と土壌の対応に関する最近の研究例の批判検討。
自然地理学特論Ⅲ	田 宮	I・II 前	現在社会的に関心もたれている気候に関する問題について文献紹介、批判を行う。
自然地理学演習Ⅰ	浅 海	I・II 後	学生の研究テーマとフィールドについての共同研究。
自然地理学演習Ⅱ	田 宮	I・II 後	気候学の研究法について、文献紹介、方法論的検討を行う。

人文科学研究科 中国文学専攻

科 容 目	教 官	学 年	卒 業 講 義 内 容 特 徴
中国文学特論Ⅰ	丸山	I・II	「魯迅研究」 作家研究の方法の一例として、魯迅のあらゆる作品（手紙、序跋を含む）を執筆順に読んで行く。さしあたりは、1935年の分を読む予定。教材はコピーでもよいが、できれば『魯迅全集』を用意。
中国文学演習Ⅰ	佐藤	I・II	「清末文学研究」 古典文学の掉尾ともいべき清末の詩文のいくつかを読み、清末文学のもつ意味・問題点を考察する。
中国語学特論Ⅱ	藤山	I・II	「説文解字研究」 段玉裁の『説文解字注』を読み、漢字の形・音・義三つの側面を考える。テキスト：『説文解字注』上海古籍出版社
中国語学演習	相原	I・II	「中国語アスペクト論」 中国語のアスペクトの問題について、主要論文を講読しながら考える。
野外調査Ⅱ	式部	I・II	自然地理、人文地理の作成に関連する資料の収集、分析および地図編成の方法を実地に即して検討する。

人文科学研究科 英文学専攻

科 容 目	教 官	学 年	卒 業 講 義 内 容 特 徴
英文学演習Ⅰ	内田	I・II	Thomas Carlyle: <u>Sartor Resartus</u> (1833-1834) (Oxford: The World's Classics) を読んでみる。いろいろな方向からのアプローチを試す。
英文学演習Ⅱ	野島	I・II	Hamletを生み出す Revenge Tragedyの伝統の創始者、Thomas Kydの <u>The Spanish Tragedy</u> を読む。テキストは <u>The Spanish Tragedy</u> (Manchester University Press)
英文学特論Ⅰ	工藤	I・II	George Eliotの文学と思想について考察する。テキストはルネサンス期のフィレンツェを舞台にした野心的歴史小説 <u>Romola</u> (Penguin)
米文学演習Ⅱ	酒本	I・II	Nathaniel Hawthorne's <u>Tales</u> (A Norton Critical Edition) 研究室で購入のこと。
米文学特論Ⅱ	海老根	I・II	「現代アメリカ女性文学」 Adrienne Rich, Sylvia Plath, Alice Walker, Joyce Carol Oats, Ann Beattie 等から。とりあえず、 <u>Adrienne Rich's Poetry</u> (Norton Critical Editions) を研究室で購入のこと。
英語学演習	宮川	I・II	英語語法、特にアメリカ口語の語法を中心に、現代英語語法の実態を探る。
英語学特論Ⅱ	今西	I・II	最近の <u>Government and Binding Theory</u> について批判的に考察を行う。

人文科学研究科 教育学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教育学特論	上野	I・II	教育におけるロゴスとパトスの問題について考える。
教育史特論	寺崎	I・II	19世紀から20世紀にかけてのイギリスにおける、子ども・親・学校・国家の連関の歴史的变化を、教育関係構造史として捉えようとする。英文テキスト使用。
教育方法学特論	宮原	I・II	言語教育・政策に関する諸問題を、主に言語社会学関係の内外の文献を読みながら検討する。
教育社会学演習	山村	I・II	日本の学校の特質を外国人研究者による次の研究を通して考えてみたい。 W. カミングス『日本の学校』サイマル T. ローリン『日本の高校』サイマル B. デューク『ジャパニーズスクール』講談社
教育行政演習	森 (前期) 市川 (後期)	I・II	行政の心理学的研究、教育組織(システム)を心理的に検討する(前期)。外国人の日本研究を通して教育システムを明らかにする(後期)。テキスト:市川著「教育システムの日本的特質」
社会教育学演習	小川 (剛)	I・II	M. Knowls, "Andragogy" の講読を中心に、成人の学習の問題を検討する。
博物館学演習	鷹野	I・II	考古学資料と博物館について。
文化人類学演習	田中	I・II	人間の社会や文化を人類学的に捉えるとはどういうことなのか、いくつかの論文(Radcliffe-Brown, Malinowski, Levi-Strauss らを予定)を読みながら、人類学の方法論や理論的枠組を検討する。

教育学専攻 心理学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
発達心理学特論	藤永	I・II	現代人格心理学の由来、特徴などを考察し、その学問的性格の解明と現代心理学のなかでその占める位置づけについて検討する。
発達心理学演習	春日	I・II	人格と情動の発達、適応と行動のメカニズム、精神病理の諸問題について、文献講読と討議を中心に考える。
教育心理学特論	吉田	I・II	教育活動/過程の心理学的研究に可能な多様なアプローチの中の一つとして、現象学的心理学の可能性を探索する。基礎から始める事で、参加者自身の研究にとって多少の意味を持つように努めたい。
教育心理学演習I	内藤	I・II	道徳性の発達に関して、文献を読み討論する。
教育心理学演習II	須賀	I・II	心理学における理論科学化の可能性を探索する。参考書:V. Cook「Chomsky's Universal Grammar」1988 N. Borgard「Pattern Recognition」Spartan. 1970
認知心理学特論	内田	I・III	記憶・認知領域の実験研究をとりあげて、批判的に検討することにより、認知心理研究の方法論の諸問題について考える。テキスト:Neisser & Winograd (eds.), Remembering reconsidered. Cambridge University Press, c. 1988.

人文科学研究科 舞踊教育学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
舞踊教育学特論	片岡	I・II	舞踊及び舞踊教育関係の内外の文献講読を通じ、文化と教育の両義性から舞踊を考察する。
舞踊教育学演習	片岡	I・II	学生各自の専攻主題に応じた演習及び共同研究。
舞踊美学特論	三隅 後	I・II	わが国の民俗舞踊の技法とその民俗的基盤について、周辺諸国のそれと比較しながら考察する。
遊戯学特論	加賀	I・II	蘭田碩哉：「遊びの構造論」不昧堂出版、昭58をテキストとして、遊戯論について考える。
遊戯方法論演習	加賀	I・II 後	身体運動の技能獲得、あるいは身体運動による自己表現に関する研究論文を読み研究法のあり方を検討する。
遊戯学実験実習	石黒	I・II 前	作品分析を通じて舞踊美の特質について触れる。
動作学実験実習	森下	I・II	幼少期の動作発達について、小課題をきめ、観察、分析をすすめる。

目録 舞踊教育学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
音楽学特論 II	大宮	I・II	Charles Rosen : The Classical Style. (London : Faber & Faber) (一括購入) 講読3年目。1年全員、2年は前期のみ履習のこと。
音楽学演習 I	大宮 徳丸	I・II	文献探索の特論と実習。音と映像の扱いも含む。論文作成と発表に必要な技術の訓練も行う。1、2年全員の共同ゼミナール。
音楽学特論 I	徳丸	I・II	民族音楽学と音楽記号学の研究。教科書は、Tokumaru/Yamaguti, eds. : The oral and the literate in music, Tokyo, Academia Music, 1986。他に岩波講座「日本の音楽・アジアの音楽」など。
音楽学演習 II	渡部	I・II	ヘンデルにおける自作品及び他作品借用の研究。この古くて新しい問題をその研究史をふまえながら、多くの楽譜資料を駆使して考察する。共同作業と分析の結果を一つの形にまとめることを目指す。
演奏学演習 I	遠藤	I・II	ピアノ音楽における様式の比較研究、および演奏学実習。
舞台芸術実験実習	佐々木 遠藤	I・II	演奏法研究、および作品研究。
演奏学演習 II	林	I・II	イタリア声楽曲の作品研究、および演奏学実習。
演奏学特論 II	長谷川	I・II	ドイツリートの研究及び演奏法をテーマとするゼミナール。

人文科学研究科 関連科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
独 文 学 特 論	杉 本	I・II	G.ケラー「村のロメオとユリア」他を講読・解釈する。(テキスト及び資料は研究室で用意する)
仏 文 学 特 論	石 川	I～II	Stendhal, <i>La Chartreuse de Parme</i> 講読と評釈。(テキストは仏文助手室で求めること)
仏 文 学 特 論	中 川	I～II	J.J.Rousseau, <i>Les Rêveries du Promeneur solitaire</i> の講読と評釈。 [(テキストは仏文助手室で購入すること)]
			身体運動の技能獲得、あるいは身体運動による自覚意識に基く新しい論文発表研究法のあり方を検討する。
			作品分析を通じて舞踏美の特質について触れる。
			拙作劇の編作・演出・舞台・音楽を演め、観察、分析をすすめる。
		II・I	木々田 晋実 演劇音楽台本
		II・I	林 晋 演劇音楽
		II・I	川谷 晋 演劇音楽

理 学 部

理学部・共通科目

★昭和63年度以前に入学した学生は（ ）内科目名とする。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
初 等 集 合 論	島 内	I 前	集合論の初歩を、関数、自然数まで含めて講義する。参考書：島内剛一「数学の基礎」(日本評論社)
初 等 解 析 学 I	久保内	I 後	数学(理) Iの一変数の微分積分のつづきとその応用。教科書：州之内治男、和田淳蔵共著〔微分積分〕サイエンス社
初 等 解 析 学 II	前 田	II 前	多変数関数の微分と積分。
初 等 線 形 代 数 学	桂	I 後	数学(理) IIの続き。行列式、固有値と固有ベクトルなどについて講義する。
初 等 代 数 学	小 山	I 後	複素数、初等整数論、多項式など。数学科学生は一年次、他は任意学年。
初 等 波 動・熱 学	柴 田	I・II 前	波動及び振動論。さらに熱力学の基本法則。教科書：原 康夫著「物理学通論 I」、(学術図書出版)
初 等 電 磁 気 学	太 田 (隆)	I~IV 後	電磁気の基礎的諸性質を概説する。
基 礎 量 子 化 学	細 矢	I 前	化学の基礎としての波動的な考え方の入門。それを用いて原子、分子の構造や性質をどのように理解するかを講義する。
基 礎 化 学 熱 力 学	大 橋	I 後	熱力学の基礎とその化学への応用の入門的講義。教科書：B.H.メイアン著(千原秀昭、崎山稔訳)「やさしい化学熱力学」(化学同人)
地 球 科 学 ★(地 球 化 学)	佐 藤	I 後	元素と同位体の存在度、分布、移動から見た地球。

※科目の設置は、設置年度に示す通りである。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容 詳
古生物学	小島 晶	Ⅱ・Ⅲ 前	理学部学生基礎知識としての古生物学を概説する。化石の研究を通じて生命の歴史を顧る視点に立つが、主に日本での研究例をみつつ、体系把握に努める。教科書：「化石の科学」(朝倉書店)
微視生物学	遠山	Ⅰ・Ⅱ 前	生体膜の微細構造と機能を中心にして、新しい角度から生命現象を講義する。
巨視生物学	馬場	Ⅰ 後	動物の環境への適応。
天文学	田鍋	Ⅱ 前	天文学の基礎知識の理解を目的として、暦、太陽、太陽系、恒星、銀河等について概説する。参考書：国立天文台編「理科年表」(丸善)
気象学	内嶋	Ⅰ・Ⅱ 後	地球上での太陽エネルギーの変換・放出過程として気象現象を系統的に説明する。また、生物に関係の深い接地気象についても熱収支の立場から概説する。最後に地球の気候変化についてもふれる。
電子計算機	未定	Ⅲ 後	電子計算機のハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を概説する。
物理学基礎実験	池田	Ⅱ 前 (化)	基礎的な物理実験の実習。教科書：水野・三木著「基礎物理学実験」(培風館)
物理学基礎実験	富永	Ⅱ 後 〔生物〕	基礎的な物理実験の実習。教科書：水野・三木著「基礎物理学実験」
化学基礎実験	今野	Ⅱ 前	基礎的な化学実験の実習
生物学基礎実験	渡辺 豊島	Ⅰ 前 (集中)	臨海実験所において、主として海産無脊椎動物の発生を中心とした観察と実験。(9月集中)但、履習者が少ない場合は今年度は9月分は行わない。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容 詳
生物学基礎実験	山下 西川	Ⅰ 前 (集中)	臨海実験所において、植物、動物の基礎的な野外採集、顕微鏡観察などを行う。
地学基礎実験	内嶋	Ⅰ・Ⅱ 前	地学実験の基礎となる太陽エネルギーの計算法、気温測定法および鉱物学について簡単に説明し、実習と見学研修を行う。

数 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
線形代数	小川	I	行列、行列式、線形空間、固有値など。 教科書：斉藤正彦「線形代数入門」 (東大出版会)
線形代数演習	小川 榎本	I	線形代数の演習
微積分学 I	藤原	I	微積分学の基礎とその応用
微積分学 I 演習	藤原 成田	I	微積分学 I の演習
微積分学 II	竹尾	II	多変数の微積分とその応用。教科書： 伊藤雄二「微積分学」(朝倉書店)
微積分学 II 演習	竹尾	II	微積分学 II の演習
代数学序論	小山	II	群論入門。参考書：堀田良之「数学シリ ーズ・代数入門」(裳華房)
代数学序論演習	小山	II	同上の演習(講義と演習を隔週で行う)
幾何学序論	小川	II	ユークリッド空間上のベクトル場、微分 形式。テンソル解析。教科書：スピヴァ ック「多変数解析学」(東京図書)
幾何学序論演習	小川	II	同上の演習(講義と演習を隔週通年)
位相空間論	澤島	II	位相空間論入門(距離空間・位相空間・ コンパクト性、連結性など)教科書：青 木利夫：高橋涉著「集合・位相空間要論」 (培風館)
位相空間論演習	澤島	II	位相空間論の演習
関数論 I	渡辺	III 前	Cauchyの積分定理を中心とした複素関数 論の初歩。教科書：岸正倫、藤本担考共 著「複素関数論」(学術図書出版社)

※科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
数 学 講 究	沢島 高村 小川 山原 藤原 渡辺 前田 塚田 桂 竹尾	IV	各研究室に分かれて、それぞれ特定の題 目について(原則として)外国語文献の 講読を行い、知識を深めるとともに数学 における研究の方法を修得する。
微分方程式論 I	高村	III 前	常微分方程式入門。教科書：ポントリヤ ーギン「常微分方程式」(共立出版)
代 数 学 I	桂	III 前	環・体・加群などの基本的な代数系の理 論を解説する。参考書：石田信著「代 数学入門」(実教出版)
幾 何 学 I	塚田	III 前	曲線と曲面の微分幾何。参考書：小林昭 七「曲線と曲面の微分幾何」(裳華房)
積 分 論 I	前田	III 前	ルベーグ積分の基本事項。
関 数 解 析	渡辺	III 前	Banach空間の基本的な性質及びその上の 線形作用素の基礎理論。
関数論 I 演習	渡辺	III 前	関数論 I の演習。
関数論 I 演習	渡辺	III 後	関数論 I の続き。有理型関数、等角写像 など。
積 分 論 II	前田	III 後	積分論 I の続き。
微分方程式論 II	高村	III 後	偏微分方程式入門。
※代数学 II	桂	III 後	拡大体の話からはじめてガロワの理論の 解説をおこなう。参考書：石田信著「代 数学入門」(実数出版) ◎代数学 I

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
幾何学Ⅱ	水谷	Ⅲ前	位相幾何学の題材からホモロジー論をとりあげて講義する。参考書：加藤十吉著「位相幾何学」(裳華房)
確率論	伊藤	Ⅲ後	初めに有限試行について確率変数、独立性、大数の法則を解説し、次に実数上の確率分布とその特性関数の性質を述べて中心極限定理に及ぶ。参考書：伊藤清「確率論Ⅰ、Ⅱ」(岩波講座基礎数学)
数理統計学	草間	Ⅲ・Ⅳ後	一般教育において学習した統計学の内容をより数学的に深めた講義をしたい。一般教育の統計学を修得しておくのが望ましい。教科書：草間時武「統計学」サイエンス社
応用解析学	寶来	Ⅲ・Ⅳ前	計算の可能性とその限界について数学的に考察する。
電子計算機	未定	Ⅲ後	電子計算機のハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を概説する。
プログラミング言語と実習	橋爪	Ⅲ後	FORTRAN77による電子計算機プログラム作成の講義と端末機による実習
解析学統論Ⅰ	宮島	Ⅲ・Ⅳ後	Banach空間、Hilbert空間上の有界線型作用素についての基礎についての講義。作用素のスペクトル、コンパクト作用素Fredholm作用素、自己共役作用素のスペクトル分解の初歩などを扱う。
代数学統論Ⅰ	藤原	Ⅲ・Ⅳ前	代数的整数論入門
幾何学統論Ⅲ	塚田	Ⅲ・Ⅳ後	多様体上の微分幾何。ベクトル場、微分形式などの基礎的取扱について述べる。参考書：松島与三「多様体入門」(裳華房)、村上信吾「多様体」(共立出版)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
数学演習Ⅰ	桂 榎本	Ⅲ・Ⅳ後	代数学Ⅰの演習。
力学Ⅱ	亀井	Ⅰ後	剛体の運動を中心として、中心力場
確率論Ⅱ	伊藤	Ⅱ前	確率変数の独立、大数の法則、中心極限定理
数理統計学Ⅱ	草間	Ⅲ・Ⅳ後	一般教育において学習した統計学の内容をより数学的に深めた講義をしたい。一般教育の統計学を修得しておくのが望ましい。教科書：草間時武「統計学」サイエンス社
応用解析学Ⅱ	寶来	Ⅲ・Ⅳ前	計算の可能性とその限界について数学的に考察する。
電子計算機Ⅱ	未定	Ⅲ後	電子計算機のハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を概説する。
プログラミング言語と実習Ⅱ	橋爪	Ⅲ後	FORTRAN77による電子計算機プログラム作成の講義と端末機による実習
解析学統論Ⅱ	宮島	Ⅲ・Ⅳ後	Banach空間、Hilbert空間上の有界線型作用素についての基礎についての講義。作用素のスペクトル、コンパクト作用素Fredholm作用素、自己共役作用素のスペクトル分解の初歩などを扱う。
代数学統論Ⅱ	藤原	Ⅲ・Ⅳ前	代数的整数論入門
幾何学統論Ⅱ	塚田	Ⅲ・Ⅳ後	多様体上の微分幾何。ベクトル場、微分形式などの基礎的取扱について述べる。参考書：松島与三「多様体入門」(裳華房)、村上信吾「多様体」(共立出版)

※印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。
★昭和63年度以前に入学した学生は〔 〕内科目とする。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
熱力学及び統計力学Ⅰ	橋 爪	Ⅲ 前	熱力学基本法則とその簡単な応用。また熱揺動理論にもふれる。
熱力学及び統計力学Ⅱ	柴 田	Ⅲ 後	平衡状態の統計力学。時間があれば非平衡系にも言及する。教科書：久保亮五著「統計力学」、(共立出版)
物 性 物 理 学 Ⅰ ★〔専攻科目・選択〕	池 田	Ⅲ 後	
物 性 物 理 学 Ⅱ ★〔専攻科目・選択〕	富 永	Ⅳ 前	金属・半導体・磁性・超伝導等、固体電子論の基礎的事項について概説する。参考書：キッテル「固体物理学入門(上・下)」(丸善)
原子核物理学Ⅰ ★〔専攻科目・選択〕	小 川	Ⅳ 前	原子核の基本的性質ならびに原子核が関与する諸現象について、量子力学を基礎に概説する。
素 粒 子 物 理 学 ★〔専攻科目・選択〕	菅 本	Ⅳ 後	素粒子物理学の基礎。中間子論からクォークモデルまで。参考書：原康夫著「素粒子」(朝倉書店) 南部陽一郎著「クォーク」(講談社ブルーバックス)
物 理 学 実 験 Ⅰ	伊 藤 (厚) 森 本	Ⅱ 前・後	基本的な物理量の測定を通して、測定装置の使用法・測定結果の解析法の習得、ならびに物理的思考力の養成。
※ 物 理 学 実 験 Ⅱ	田 中 飯 田 外 館	Ⅲ	物理学実験Ⅰの後を受けて、やや高度な基本的な物理実験を実習する。 ◎物理学実験Ⅰ、物理実験学Ⅰ
物 理 学 輪 講	柴 田	Ⅲ 後	英語文献の講読。

★昭和63年度以前に入学した学生は()内科目名とする。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
特 別 研 究	橋 爪 田 中 伊 藤 (厚) 伊 藤 (敬) 柴 田 池 田 富 永 太 田 菅 本 佐 藤 亀 井	Ⅳ	理論専攻と実験専攻に分かれ、各研究室に所属して、それぞれの特定の題目について知識を深めるとともに、物理学における研究のありかたを修得する。
力 学 演 習 ★(力学Ⅰ演習)	亀 井	Ⅰ 後	力学全般に関する演習。
電 磁 気 学 演 習 ★(電磁気学Ⅰ演習)	古 森		
物 理 数 学 演 習 ★(物理数学Ⅰ演習)	太 田	Ⅱ 後	物理数学全般に関する演習。
量 子 力 学 演 習 ★(量子力学Ⅱ演習)	伊 藤 (敬)	Ⅲ 前	量子力学Ⅱの演習。
原 子 物 理 学	伊 藤 (厚)	Ⅱ・Ⅲ 前	原子に関連した物理現象を実験事実に基づいて説明し、量子力学および原子の集団の性質を扱う物性論への橋渡しとする。
相 対 論	菅 本	Ⅲ 前	特殊及び一般相対論。ローレンツ変換からブラックホールまで。

★昭和63年度以前に入学した学生は(半入)内科目名とする。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
連続体物理学	高見	Ⅲ 前	物質を連続体とみなして扱う力学。具体例として弾性体の力学。また、テンソルの基本的な考え方。 (流体物理学の基礎としても役立つ)
流体物理学	高見	Ⅲ 後	連続体の中で最も興味ある振舞いを示す流体の運動と力学を、物理と数理の両面から学ぶ。
電子計算機	未定	I 後	電子計算機のハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を概説する。
プログラミング言語と実習	橋爪	Ⅲ 後	FORTRAN77 による電子計算機プログラム作成の講義と端末機による実習。
物理実験学Ⅰ	田中	Ⅱ 後	物理的基礎量の測定法とデータ解析の方法。
物理実験学Ⅱ	田中	Ⅲ 前	電子回路の基礎とその応用、電気的測定法。
天 文 学	田鍋	Ⅱ 前	天文学の基礎的知識の理解を目的として、暦、太陽、太陽系、恒星、銀河等について概説する。参考書：国立天文台編「理科年表」(丸善)
地球科学 ★(地球化学)	佐藤	I 後	元素と同位体の存在度、分布、移動から見た地球。
気象学	内嶋	I・II 後	地球上での太陽エネルギーの変換・放出過程として気象現象を系統的に説明する。また、生物に関係の深い接地気象についても熱収支の立場から概説する。最後に地球的気象変化についてもふれる。

文部省指定 指定科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
物理学史	八木	IV 前	科学史一般の流れについて概説したあとで、主として19~20世紀の物理学史についての事例を取り扱う。教科書はとくになし、参考書については授業中に言及する予定。

理学研究科 物理学専攻

科 容 目	教 官	学 年	予 学 講 義 内 容 科
分 子 特 論 I	佐 藤	前	分子の量子力学。例として弾性体の力学。また、ラングミュアの基本的な考え方。
分 子 特 論 II	伊 藤 (敬)	I・II 後	原子の量子力学。
統 計 力 学 特 論 III	柴 田	I・II 前	確率過程論と非平衡系。
統 計 力 学 特 論 IV	橋 爪	I・II 後	ブラウン運動論。
素 粒 子 特 論 I	菅 本	I・II 前	場の理論の基礎と素粒子のゲージ模型に最近の話題等。参考書：T-P Cheng and L-F Li 「Gruge Theorey of elemlyxtary parficle physics」 (Oxford University Press)
素 粒 子 特 論 IV	吉 川	(集中) I・II 前	ひもの場の理論を、光円錐ゲージの枠内で述べ、そこに現われるローレンツ異常項とその解消機構を明らかにする。その後、ひもの理論が時空と物質の統一理論になり得る資格について論ずる。
固 体 特 論 I	伊 藤 (厚)	I・II 前	元素と同位体の存在度、分布、移動が
磁 性 体 特 論 I	田 中	I・II 後	地球上での太陽エネルギーの集積、気候変動として気象現象を系統的に説明する。また、生物に關係の深い陸地気象についても熱収支の立場から概説する。最終的に地球的气象変化についてもふれる。

科 容 目

科 容 目	教 官	学 年	予 学 講 義 内 容 科
特 別 化 研 究	橋 爪 田 中 伊 藤 (厚) 伊 藤 (敬)	I・II	分子の量子力学。例として弾性体の力学。また、ラングミュアの基本的な考え方。
無 機 化 学 II	柴 田 池 田 富 永 大 田 菅 本 佐 藤	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 III	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 IV	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 V	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 VI	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 VII	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 VIII	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 IX	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 X	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XI	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XII	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XIII	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XIV	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XV	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XVI	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XVII	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XVIII	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XIX	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。
無 機 化 学 XX	菅 本	I・II 前	無機化学の基礎と応用。元素の性質、反応の機構、配位化学の基礎理論と錯体の特性、反応について概説する。

化 学 科

※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
基本化学実験	細矢 福田 鷹野	I 前	化学の基礎となる実験。 教科書：畑・渡辺「基礎有機化学実験」 (丸善)、荒木峻他「分析化学実験指針」 (東京化学同人)
※ 物理化学 I	大橋	II	熱力学に基づいた化学平衡と溶液論および統計熱力学の入門的講義。 ◎基礎量子化学、基礎化学熱力学。 教科書：アトキンス「物理化学」 (上、下) (東京化学同人)
分析化学 I	富田	II 前	分析化学一般の基礎的事項。化学平衡(酸・塩基平衡、錯生成、溶解平衡、酸化還元平衡)、滴定分析、重量分析、原子スペクトル分析ほか。
有機化学 I	前田	II	有機化学総論(構造、反応の基礎)。各論(炭化水素、ハロゲン化合物、窒素化合物) 教科書：Morrison and Boyd, 「Organic Chemistry」 Fifth Edition, (Allyn & Bacon)
無機化学 I	福田	II 後 III 前	主要な元素・無機化合物の構造・性質と元素の周期律・原子の構造との関係。
生物化学 I	瀬野	II 後 III 前	生体物質の化学と代謝の前半。糖質、タンパク質の化学と代謝。教科書：スッティ「生化学」(科学技術出版社)
※ 構造化学	細矢	III 後	物理化学 II の後を受け、化学結合、分子構造・反応機構・種々のスペクトル等の理論を主に分子軌道法によって説明する講義。 ◎基礎量子化学、物理化学 II
※ 構造化学 I	細矢	II 後	一般物理化学のうち、量子化学を基礎とする原子構造と化学結合の問題を中心とした講義。次年度 III 年前期に後半を講義。

※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
分析化学 II	藤枝	II 後	定量分析法の基礎的事項と機器分析。 教科書：デイ・アンダーウッド著 鳥居他訳「定量分析化学」(培風館)
※ 有機化学 II	永野	III	酸素官能基を有する化合物および複素環式化合物の化学。 ◎有機化学 I 教科書：モリソン・ボイド「有機化学」第4版(東京化学同人)
※ 無機化学 II	福田	III 前	前半は無機化学 I の内容を補充し、さらに多くの実例について述べる。後半は主に配位化学の基礎理論と錯体の物性・反応について概説する。 ◎無機化学 I
生物化学 II	松本	III	核酸、脂質の生化学。免疫化学の概説。 教科書：スッティ「生化学」(科学技術出版)
無機化学実験	福田	I 後	簡単な無機化合物の合成と、それらの性質、反応の観察。
分析化学実験	富田 藤枝	II 前	主として無機物質を扱う基本的分析操作と定量分析法。
※ 物理化学実験	大橋 堀 鷹野	III 前	物理化学 I、II と構造化学 I、II に基づく物理化学基礎実験。 ◎物理化学 I、II、構造化学 I、II 教科書：千原秀昭編「物理化学実験法」(東京化学同人)、他にプリント
有機化学実験	前田 永野 石毛	II 後	合成の基本操作、定性分析。教科書：畑・渡辺著「基礎有機化学実験(丸善)」、「フィーザー有機化学実験」原著4版後藤俊夫訳(丸善)

化 学 科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
生物化学実験	瀬野 杉本 小川	Ⅲ 後	生体物質の分離・精製と性質に関する基礎的研究。
化学演習	全教官	Ⅳ	外国文献の講読。
特別研究	瀬野 前田 細矢 富田 大橋 福田 松本 永野 藤枝 今野	Ⅳ	各研究室に分属して特定の題目について研究し、研究方法を総合的に学習する。
放射化学	富田	Ⅲ 後	放射性物質の化学の基礎と応用。壊変や核反応の研究における化学の役割など。安定同位体の化学にも触れる。
有機化学反応論	未定		
物理化学Ⅱ	今野	Ⅲ 後	X線結晶学の基礎・X線回析法による分子構造決定の原理・蛋白質分子の三次構造について概説する。
無機化学特別講義	中原	Ⅳ 前	現代無機化学のトピックスのいくつかを講義する。特に金属クラスター化合物および酸化物電導体を中心とする。

※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。
★昭和63年度以前に入学した学生は()内科目名とする。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
有機化学特別講義	稲本	Ⅲ 前	置換、付加、脱離、転位、付加環化反応など、主な有機化学反応の起こる機構をわかりやすく説明する。 参考書：稲本直樹著「反応論による有機化学」(実教出版)
※構造化学特別講義	小林	Ⅲ 前	物理化学Ⅱの基礎の上に、分子構造研究上有用な各種分光学の原理と応用および分子集団の電気・磁気物性について統一的に学ぶ。教科書：アトキンス「物理化学」(下)(東京化学同人) ◎物理化学Ⅱ
生物物理化学	林	Ⅲ 後	生命現象を理解する上で必要なあるいは役に立つ物理科学的考え方を復習し、生命現象の応用例を述べる。生物および化学における平衡、生体高分子の構造、反応速度論など。
計算機化学講義・演習 ★(機器分析)	藤枝	Ⅲ・Ⅳ 前	電子計算機のハードウェア・ソフトウェアの基礎知識とプログラム作成の演習(情報処理教室を使用する)。機器測定におけるデータ処理、測定値の数値解析法、およびいくつかの代表的計算法など。

理学研究科 化学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
構造物理化学	今野	I・II	蛋白質分子のX線結晶解析法について。
物理化学特論 I	大橋	I・II	結晶構造に基づく反応論について。
物理化学特論 II	未定	前	外国文献の講読。
物理化学演習 I	大橋	I・II	結晶化学についての文献の輪読と討論。
無機化学特論 I	福田	未定	金属錯体研究のための各種分光学的应用、配位子場理論 (予定)
無機化学演習 I	福田	未定	論文の輪読と討論。
有機化学特論 II	未定	前	放射性物質の化学の基礎と応用。核反応の研究における化学の役割など。
有機化学演習 II	前田 永野	前	外国文献の講読と討論。
生物化学特論 I	瀬野	I 前	複合糖質の構造と機能を中心にした講義と輪読。
生物化学特論 II	松本	I・II	アフィニティークロマトグラフィー。レクチンの生化学。
生物化学演習 II	松本 瀬野	I・II	生化学論文の輪読と討論。

理学研究科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
構造化学特論 I	細矢	I・II	構造化学の基礎と応用。有機化学の発展と展望について。
構造化学演習 I	細矢	I・II	構造化学についての論文の輪読と検討。
特別研究	瀬野 前田 細矢 福田 松本 永野 藤枝 今野	I・II	特別研究の進捗状況の報告と指導。
有機化学演習 II	前田 永野	前	有機化学の基礎と応用。
生物化学演習 II	松本 瀬野	I・II	生物化学の基礎と応用。

生物学科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
生 理 化 学	林	I 前	生理化学の基礎を概説する。 教科書：野田春彦・丸山工作「生物学入門」(培風館)
動 物 系 統 学	渡 辺	II 前	主として無脊椎動物各群について、その体制、発生、進化などの見地から動物の系統について解説する。参考書：他編「無脊椎動物の発生」上下巻(培風館)
植 物 形 態 学	山 下	II 前	植物の生殖、発生、生活史、解剖の比較体系。
植 物 生 理 学 I	清 水	II 前	一次代謝を中心とした植物生理学概論。 参考書：清水碩「植物生理学」(裳華房)
遺 伝 学	石 和	II 後	真核生物を主とした遺伝子の構造と機能について。参考書：タマリン「遺伝学」(木村資生監訳)上・下(培風館)
細 胞 生 物 学 I	遠 山	II 前	細胞小器官の微細構造、生理、生化学について概説する。同時に新着論文の講読および解説。
細 胞 生 物 学 II	太 田	III 前	分子生物学を基礎として、細胞の構造と機能を概説する。
動 物 生 理 学 I	馬 場	III 前	動物生理学の基礎、特に興奮、感覚、運動についての概説。参考書：鈴木泰三・田崎京二・中浜博共著「生理学通論 I・II」(共立全書)
発 生 生 物 学	能 村	III 後	動物の発生過程と、発生生物学が提起するいくつかの基本的な問題の概説。
生 物 学 演 習	全教官	IV	

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
特 別 研 究	太 田 新 関 能 村 清 水 遠 山 石 和 山 下 馬 場 林	IV	学生各自個別の主題による専門的研究作業とレポート作成。指導教官が助言役に当たる。生物学的研究法的一端を体得することを目的とする。
動 物 系 統 学 実 習	渡 辺	II 前	代表的ないくつかの動物を材料として広義の解剖実習
植 物 形 態 学 実 習	山 下 西 川	II 前	植物形態学の基礎的な実験。実習資料：学生版牧野日本植物図鑑(北隆館)。
遺 伝 学 実 習	新 関 石 和 松 浦	II 後	遺伝学の基礎的な実験。
細 胞 生 物 学 実 習	太 田 遠 山 室 伏	III	細胞生物学の基礎的な実験。
植 物 生 理 学 実 習	清 水 芦 原 作 田	III 前 (集中)	植物生理学の基礎実験(培養細胞系を用いた代謝実験法)
動 物 生 理 学 実 習	馬 場 林	III 後 (集中)	カエルなどを用いた動物生理学の基礎実験。
発 生 生 物 学 実 習	能 村 豊 島	III 後 (集中) (11月 ~ 12月)	発生生物学に関する基礎実験。

※印科目の履修は、講義内容欄の○を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
動物生理学臨海実習	馬 場	Ⅱ 前 (集中)	各種海産動物を用いた動物生理学の基礎実験。
動物系統学臨海実習	渡 辺 豊 島	Ⅲ 前 (集中)	海産動物の、採集およびそれらの材料を用いた形態学分類学の基礎実験。
発生生物学臨海実習	能 村 豊 島	Ⅲ 後 (集中)	海産無脊椎動物を用いた発生生物学の基礎実験。
野 外 実 習	山 下 西 川	Ⅱ 前 (集中)	海産植物と陸上植物の分類、形態、分布を現地で観察する。植物形態学実習を同時に履修すること。※実習資料：学生版牧野日本植物図鑑（北隆館）。瀬川宗吉、原色日本海藻図鑑（保育社）。
※植物生理学Ⅲ	芦 原	Ⅲ 後	植物における窒素の代謝（窒素固定、硝酸還元、アミノ酸の合成、ヌクレオチドの合成、タンパク質、核酸の合成など）および代謝実験法について述べる。 ○生物学（理）Ⅱまたは、植物生理学Ⅰ
動物生理学Ⅱ	林	Ⅲ 後	動物の細胞生理学と生化学を概説する。免疫やがん細胞など関連する基礎医学的問題にもふれる。
細胞遺伝学	新 関	Ⅲ 後	真核生物における遺伝物質のありかた、その働きについて考察する。
集団遺伝学	石 和	Ⅲ 前	分子生物学の新しい発展を取り入れた集団遺伝学と生物進化。遺伝情報解析技術の進歩によって得られた新しい知識は、生物進化の描像にどのような変革をもたらしたか。参考書：「集団遺伝学入門」（ハートル著、向井；石和共訳）培風館「集団遺伝学」（放送大学テキスト）

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
生態学Ⅰ	有 賀	Ⅲ 前	生態系、物質生産（有機物生産）と生物生産、水界とその生物群集、現存量と一次生産、二次生産および高次生産、物質循環などについて講義する。
生物学史	中 村	後	科学者集団の特徴について考える。 参考書：中村禎里「科学者その方法と世界」朝日新聞社、中村禎里「魔女と科学者その他」海鳴社、中村禎里編「遺伝学の歩みと現代生物学」培風館
動物生理学特別講義Ⅱ	高 杉	Ⅲ 後	主として哺乳動物における内分泌現象を視床下部・下垂体系、甲状腺、睪臓、副腎、生殖腺等について概説し、あわせてホルモンによる生体の生理学的諸機能の調節機構について講義する。
植物生理学特別講義Ⅰ	笠 毛	Ⅲ 前	植物生理学は植物の栄養、代謝、生長分化の三つより成る。本講義ではこれらのうち、生長分化を中心にそれらの現象に関与する反応を、細胞および分子レベルで概説する。
遺伝学特別講義Ⅰ	外 村	Ⅲ 前	
細胞生物学特別講義Ⅰ	新 田	Ⅲ 後	『分子細胞生物学』の範囲を中心に細胞の構造と機能の関係を追求し、生命を担う細胞の役割について理解を深めることを目的とする。細胞を利用したバイオ技術についても紹介する。

理学研究科 生物学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
動物形態学特論	渡 辺	I	下等無脊椎動物における細胞分化と形態形成に関する問題を中心とした論文の紹介・輪読。
動物発生学特論 I	能 村	I・II	動物の初期発生を含む、細胞運動に関する論文の輪読と講読。
動物発生学特論 II	根 本	I・II 後	動物の卵成熟および初期発生に関する論文の輪読と講読。
動物生理学特論	馬 場	I 前	細胞運動の生理学の論文の講読。
動物生理化学特論	林	I 前	動物細胞の細胞表面と接着性糖タンパク質の生理・生化学。
細胞生物学特論 I	遠 山	I・II	高等植物のプロトプラストの単離、培養、融合および再分化に関する新着論文の講読。
細胞生物学特論 II	太 田	I 後	細胞の運動と分化について。
植物生理学 I 特論	清 水	I・II	植物の二次代謝に関する論文の講読。
植物生理学特論 II	芦 原	I・II 後	植物生理学・生化学の最新の論文の講読。
遺伝学特論 I	新 関	I・II 後	
遺伝学特論 II	石 和	I・II 前	集団遺伝学概論、遺伝学、統計学、進化学の接点。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
環境植物学特論	内 嶋	I・II 前	環境と植物との相互作用とエネルギーと物質の交換活動を通じて説明し、それにもとづいて植物の乾物生産および分布特徴などについて解説する。
生物学特論 IV	井 上 笠 原	I・II 後	
特 別 研 究	太 田 新 関 能 村 清 水 遠 山 石 山 馬 場 林 渡 辺 芦 原	I・II	

理学研究科 生物学専攻

科 目	講 義 者	学 年	学 期	履 修 単 位	備 考
動物発生学特論Ⅰ	熊村 一	1・II	後	1	動物の初期発生を含む。細胞運動に関する論文の解説と講読。
動物発生学特論Ⅱ	熊村 一	1・II	後	1	動物の形成および初期発生に関する論文の解説と講読。
動物生理学特論	尾崎 一	1	前	1	細胞運動の生理学の論文の講読。
動物生理化学特論	林 一	1・II	前	1	動物細胞の表面と接着性糖タンパク質の生理学的意義。
細胞生物学特論Ⅰ	渡山 一	1・II	後	1	高等植物の原生質体に関する論文の講読。
細胞生物学特論Ⅱ	太田 一	1	後	1	細胞の運動と分化について。
植物生理学Ⅰ特論	清水 一	1・II	後	1	植物の光合成に関する論文の講読。
植物生理学Ⅱ特論	高野 一	1・II	後	1	植物生理学・生化学の最新の論文の講読。
遺伝学特論Ⅰ	新開 一	1・II	後	1	集団遺伝学概論、遺伝学、統計学、進化学の授産。
遺伝学特論Ⅱ	石野 一	1・II	前	1	集団遺伝学概論、遺伝学、統計学、進化学の授産。

家 政 学 部

児童学科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児童学入門	全教官	I 前	児童における人間の探究。全教官が担当し、児童学全般を展望し、各領域に関する紹介と導入を行う。
児童学演習	黒田	I	(1)文献を媒介に、児童学の諸課題を自主的に探究する。(2)個と集団と課題の相即的發展を模索する。(3)集団行為法、心理劇の基礎を学ぶ。
児童発達Ⅰ	無藤	I 前	児童心理学への入門として、発達の流れの基本と理論的な枠組を学び、さらに、保育研究への応用を考える。主に、学生諸君による文献の報告と討論により進める。毎回出席することが必須である。
児童発達Ⅱ	水野	Ⅱ 後	ヒトの発達を具体的な生活場面を基に、スライド、ビデオ等を用いて医学的な立場から解説する。 テキスト：水野著「児童保健」光生館。
児童社会	本田	Ⅱ 後	子どもの生にかかわる諸課題を社会・歴史・文化の側面から考究する。 参考図書：Ph. アリエス「<子供>の誕生」柳田国男著作集など。
児童社会	未定		
児童学研究法	山本	I・後	児童学研究の基礎的方法について。文献の読み方および検索の仕方、観察や実験などの基本的方法、レポートの作り方等のことについて学ぶ。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児童学研究法	山本	Ⅱ・前	児童学研究の基礎的方法について、文献の読み方および検索の仕方、観察や実験などの基本的方法、レポートの作り方等のことについて学ぶ。
児童学研究法	無藤	Ⅱ 後	児童心理学の研究の基礎をなす実験と観察の方法について、実習により学ぶ。毎回の出席が必要である。
児童学研究法	杉田	Ⅱ 後	カント・フィヒテ・ヘーゲルを中心とするドイツ観念論の家族観を最近の家族史研究の成果を踏まえて歴史的パースペクティブのもとに考察する。併わせて家族思想史的方法的課題も検討する。
人間学	湯沢	Ⅰ 後	「日本人の生活価値観」を対象に、諸々の具体例から考察する。
	飯長	Ⅰ 後	受講生自身のあり方を体験的に理解することを通して、人間を考える。
	杉田	Ⅰ 後	近代における人間像および政治社会の形成について、政治思想史の観点から講義する。教科書：福田敏一「近代の政治思想」(岩波新書)
保育学Ⅰ	本田	Ⅱ 前	大人と子どもの共存関係を広義の保育と捉え、その基盤となる諸理論を講義する。
保育学Ⅱ	山田 無藤	後 (集中)	初期の言語発達、特に0歳代の前言語的行動、1歳代の表象・記号化の開始について講義し、それを基に「ことばとは何ぞや?」ということを考える。
保育学Ⅲ	津守	Ⅲ 前	1. 保育の実践と理論、2. 保育と発達について、3. 行為の意味について、4. 保育の歴史的展望と現代の課題

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児童文化論	本田	Ⅲ 前	転換期の子ども文化。特に江戸末期から明治初期における子ども文化の動態と明治末期から大正期にかけての変貌に焦点を当てて講義する。
児童文化論演習	本田	Ⅲ 後	前期の講義を土台とした演習。遊戯論、児童文学論、育児論などの変遷を具体的に跡づける。資料はその都度指示する。
人間関係学	黒田	Ⅲ 前	(1)文献や実践資料を参考にして、人間関係の基礎を学ぶ。(2)劇活動・心理劇の多種多様な展開を試み、ドラマの世界の魅力・本質を探るとともに、人間関係をめぐる諸課題を探究する。
児童臨床学演習	黒田	Ⅲ 後	人間関係の視点から、児童臨床の理論・技法・実践について考究する。参加者の問題・課題を手がかりに、いくつかのグループを構成し、心理劇を活用した演習を行う。監督・補助自我チームの体験。
青少年問題	菊地	Ⅲ 前	児童福祉と少年保護という異なる理念の接点に位置するわが国の青少年問題の抱える問題を最近の少年犯罪、触法、不良行為の現況と家庭、学校、社会の負因のもたらす影響と対策を通じて論ずる。
青少年・児童法制論	森田	Ⅱ～Ⅳ 後	比較法文化論の観点から、少年法・児童福祉法の歴史と構造を概観する。
少年法・青少年問題演習Ⅰ	森田	Ⅲ～Ⅳ 後	内容未定・開講時に掲示。
比較家族思想史	杉田	Ⅲ	(西欧家族思想史) 西欧政治思想史の文脈の中で家・家族・教育がどのように論じられてきたかをテキストに即して検討する。今年度は古典古代から18世紀までを扱う。

※印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
比較家族思想史演習	杉 田	Ⅲ・Ⅳ	昨年に引続きルソーの家族・教育・政治思想を検討する。今年度の使用テキストは『政治経済論』『学問芸術論』『人間不平等起源論』『社会契約論』『新エロイズ』『告白』（以上岩波文庫）
児 童 福 祉	川 田	Ⅱ・Ⅲ	(近代児童福祉制度発達史) 親の子に対する監護・教育の職務たる親権についての考え方の変遷を軸にして、19～20世紀の英国児童福祉制度の発達をあとづける。
臨 床 心 理 学	飯 長	Ⅲ 前	臨床心理学の諸問題を入門的に講義する。心理療法論を中心とし、精神分析、行動療法、クライアント中心療法等を含む。
※臨床心理学演習	飯 長	Ⅲ 後	事例により、臨床心理学を学ぶ。小グループにわかれて、各論的に考えていく。登校拒否、神経性食欲不振、チック、吃音、自我同一性混乱、遊戯療法、箱庭療法など。 ◎臨床心理学
※カウンセリング論	飯 長	(Ⅱ) Ⅲ (Ⅳ) 後	カウンセリング、臨床心理学の文献を、参加者の関心にそって講読する。 ◎臨床心理学
児 童 心 理 学	無 藤	Ⅲ 前	児童心理学の最近の動向を学ぶ。認知、対人関係等の発達、子どもの遊びや保育の分析などを含む。
児 童 心 理 学 演 習	無 藤	Ⅲ 後	児童心理学のより深い理解のために、子どものビデオ観察を元に討論を行う。
児童心理学講義講読	無 藤	Ⅲ～ (Ⅳ) 後	児童心理学の英語の文献を演習形式により講読する。

※印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児 童 臨 床 学	山 本	Ⅲ	子どもへのアプローチにはいろいろなものがある。そのいくつかを学び、研究、実践にどのように生かせるかを考えたい。発達のアプローチ、臨床的アプローチ、現象学的アプローチ等を取りあげる。
児 童 保 健 学	水 野	Ⅲ 前	子どもの病気や障害児について、医学の立場から原因、特徴、治療を中心に、健康管理、保育、福祉などの問題も含めて総合的に考える。
※児童保健学演習	水 野	Ⅲ 後	児童保健学の理解をさらに深めることを目的とし、主に慢性病や障害を持つ子どもの日常生活、保育、就学等の問題についてビデオを参考に事例研究を行う。 ◎児童保健学
保 育 特 別 実 習	本 田	Ⅲ～ (Ⅳ)	付属幼稚園の観察研究、その他幼稚園の実習の機会を設け、指導する。
※臨床心理学実習	飯 長	Ⅲ～Ⅳ 前	エクササイズを通じて、カウンセリングを体験的に学習する。テキスト「入門カウンセリング・ワークブック」は、研究室で用意する。 ◎臨床心理学
児 童 保 健 学 実 習	水 野	Ⅲ・Ⅳ	乳児から学齢までの子どもを対象とし、医学的・心理学的立場から発達および生活環境に関する種々の問題にアプローチする。行動観察、発達診断、遊戯療法等の基本原理についての実習。
	鈴 木 (宏)		乳児から学齢までの子どもの発達と関連する諸問題について、医学的・心理学的立場からアプローチする。遊戯治療の症例や、発達診断・知能テスト等の実習をとおして、児童臨床の基本姿勢を学ぶ。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
臨床基礎実習Ⅴ	黒田	Ⅲ～ (Ⅳ)	乳幼児集団研究会における小集団活動の実習。きょうだいを含む異年齢の子どもたち、母親たち、リーダーたちが自主的に協力しあって行う保育臨床活動。親子の心理劇、絵本劇場、おもちゃ遊び他。
臨床基礎実習Ⅵ	黒田	Ⅲ～ (Ⅳ)	児童集団研究会における小集団活動の実習。障害（関係における障害）の軽重を問わず、さまざまな子どもたちの接在共存活動を模索し、個も集団も発展する状況づくり、チーム活動などを探究する。
臨床基礎実習Ⅶ	黒田	Ⅲ～ (Ⅳ)	人間関係に問題・課題のある子どもとその親・家族のカウンセリングの実習。お茶大児童臨床研究会において、三者面談法、遊戯療法、臨床心理劇、関係状況療法他を活用し、関係発展的に行う。
臨床基礎実習Ⅷ	津守	Ⅲ～ (Ⅳ)	愛育養護学校で保育の実習をする。受講生の都合のよい曜日をきめて、毎週1日、保育に参加する。愛育養護学校は、0歳から小学校6年生までの障害をもった幼児児童の学校である。
臨床基礎実習Ⅷ	中田 黒田	Ⅲ～ (Ⅳ)	心身障害児総合医療療育センターで言語臨床の基礎的実習をする。入院ないし通所してくる様々な子どもとの相互交渉の体験し、児童、発達、障害についての言語臨床的理解の基礎を学ぶ。
臨床基礎実習Ⅷ	武藤 黒田	Ⅲ～ (Ⅳ)	乳幼児の発達相談施設（心身障害児総合医療療育センター通園部）における臨床実習。(1)子どもの発達とその「障害」に関する臨床心理学的理解と援助の方法を知る。(2)「障害児」保育、地域福祉の実践。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児童音楽	加勢	Ⅱ・Ⅲ	子供の音楽教育理論と実技を、国際的視野と、最新の情報に基き、展開します。実技：音楽あそび、鍵盤楽器による音空間の拡大・整理・実践。 テキスト：「音楽あそび」（草楽社刊） 「ピアノの小箱」（音楽之友社刊行） 「Kodály Choral Method」 (Boosey & Hawkes)
児童造形	福田	Ⅱ	実習を中心に、造形用具を指導者の立場で使うことを身に付け、さらにより明らかな表現活動を展開できるようにする。
保育技術Ⅰ			本年度開講せず。
保育技術Ⅱ	村山	Ⅲ 前	保育の現場での、幼児の姿を、いろいろな側面から具体的にとりあげて、幼児と保育者との、かかわりのあり方を考える。
青年心理学	西平	前 (集中)	青年期の心理的特質 現代青年の世代性、青年自身の自己分析などを、心理=力動的立場、解釈学的現象学的立場、および伝記資料にもとづく生育史心理学の立場から考察する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
小児病学	瀬川 後 (集中)		発達神経科学の立場から、神経系の発達過程に遺伝性要因と環境要因がいかに関与しているかを最近の知見に基づき解説する。また、小児期に発症する、神経疾患、精神疾患の病態を解説し、それぞれが 1) ある特定の年齢に発症すること 2) 発症年齢に依存した症候を呈すること 3) あるいは経過とともに、年齢依存性に症状が変化すること 4) また、その発症に男女差のあることの必然性を神経系の発達機序に関連させ述べる。対象とする疾患は、自閉症、自閉症他行動異常、情緒障害、ジストニア、他異常運動疾患、重症筋無力症他、神経筋疾患であり、一般小児科的疾患は含まれない。
身体養護論	坂口 前 (集中)		子供の病気、けがについての常識的な知識、さらに障害児への理解と、療育、リハビリテーションの問題、また医療における子供の特殊性と教育との接点など。
児童学統計法Ⅰ	繁 梶 前 Ⅱ・Ⅲ		統計学の基礎的な知識を、なるべく数式を使わずわかりやすく説明し、簡単な演習を通じて、基本的な統計技法を修得する。確率の考え方、分布論、統計的推定と検定の考え方、t 検定等を内容とする。
児童学統計法Ⅱ	繁 梶 後 Ⅱ・Ⅲ		児童学統計法Ⅰを基に、さらに統計学に対する理解を深め、各種の技法に修熟する。分散分析、相関分析、因子分析、ベイズの推論と決定を内容とする。
児童学特殊講義	杉 田 Ⅲ・Ⅳ 前		(独語文献講読) Dieter Schwab, Familie, in: Geschichtliche Grundbegriffe Bd.2 を講読し、ドイツにおける Familie の概念史の変遷を考察する。 教材はコピーを研究室で配布する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児童学特殊講義	山 本 Ⅲ～ (Ⅳ) 前		(仏語文献講読) Que sais-Je ? の Les troubles du langage. (Porot, D.) を読みたいと思う。言語発達や言語障害について書かれた入門書である。

家政学研究科 児童学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
児童心理学特論	無藤	I	2つのテーマからなる。①子どもの認知・言語・人間関係等についての英語の文献を読む。②会話分析の手法を実例より学ぶ。
児童文化特論	本田	I	小児科、産科を中心とした近世医学書の講読。
比較家族思想史特論	杉田	I・II	J.G.Fichte, Erster Anhang des Naturrechts. Grundriss des Familienrechts. を講読し、フィヒテの家族論を考察する。教材はコピーを研究室で配布する。
言語治療特論	山本	I	文献講読(未定)と実際に子どもを観察することを通して、子どもの発達、言語について考える。
教育法制特論	森田	I 後	内容未定・開講時に揭示。
発達神経学特論	水野	I	ヒトの発達に関する英語論文・著書の抄読を通して、発達神経学的立場から総括的に考察を試みる。これとあわせて発達障害の事例研究も行う。
人間関係学特論	黒田	I	人間関係、児童臨床、心理劇と関連のある文献を講読し、研究の動向を把握するとともに、具体的な実践の基盤となる理論、方法論について探究する。
臨床心理学特論	飯長	I	臨床心理学に関する文献を講読し、実践的な側面から討論する。必要に応じて実習を交える。
児童学特別講義	原	I・II	生活とは何か、人間の諸社会において「生きる」ということはどういうことかを考える。

食物学科

※印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
栄 養 学	大塚	III 後	五大栄養素について体内での役割及び栄養に関する諸問題について解説する。
栄 養 生 化 学	荒川	III 前	糖質、脂質、タンパク質、核酸等の代謝及びその調節、生化学的意義について講述。
栄 養 生 理 学	橋詰	III 前	人体の構造としくみ、食物の消化吸収と働きを病気との関連をもたせ講義する。
※ 食 品 学	小林	II 後	食品の品質にかかわる諸成分につき、それらの生成、存在、機能について述べる。 ◎食品化学、生物化学
食 品 化 学	久保田	I 前	食品学の基礎としての有機化学及び食品の主要成分の構造と特性に関する有機化学的解説。
食 品 貯 蔵 学	本間	III 前	食品貯蔵の要因(温度、水、pH、酵素、殺菌など)と各貯蔵方法について述べる。貯蔵に関連する加工操作中に起こる成分変化についても解説する。 テキスト：桜井、藤巻著「食品の加工と貯蔵」(光生館)
食 品 加 工 学	村田	III 後	食品加工の意義、加工法の原理、原材料(米、麦、豆、果実、肉、卵等)の特性を実際の食品(主に植物性食品及び発酵食品)とその製造法に沿って概説する。
調 理 学 I	畑江	II 前	調理過程に起こる諸現象を、調理の手法との関連において講義する。 テキスト：松元文子他共著「調理学」(光生館)
調 理 学 II	島田	III 前	調理過程に起こる諸現象を食品の調理性及び嗜好性との関連において講義する。 テキスト：「調理学」(光生館)

科学辞書

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
生 物 化 学	五十嵐	Ⅱ 前	生体の構成成分のうち、主要成分である炭水化物、タンパク質、脂質、核酸の機能、構造、特性について述べる。
食 品 分 析 化 学	倉 田	Ⅱ 後	食品成分の分析一般（各種機器分析等も含む）に関する基礎的事項につき、食物学及び分析化学的立場から解説する。
食 品 物 性 論	飯 淵	Ⅲ 前	食品の熱物性と力学物性を、できるだけ食品加工や調理と関連づけて論じる。食品を加熱すると、なぜ、どのように温度が上がるのか。食品に力をかけると食品はどう抵抗し、どう変形するか。
食 品 衛 生 学	粟飯原	Ⅲ 後	食品衛生総論。食中毒発生状況。細菌、化学物質、自然毒による食中毒。マイコトキシン。食事性アレルギー。寄生虫。食品添加物。安全性評価法。新開発食品の評価。食品衛生法。討議。
食 物 学 実 験	全教官	Ⅲ	(1)各種ビタミンの抽出、化学的定量、動物実験及び主要酵素の分離、測定。 (2)食品成分の分離、定性、定量を主として化学的手法と、機器分析によって行う。 (3)食品のタンパク質のアミノ酸の定性と定量をする。ペーパークロマトグラフィーとイオン交換クロマトグラフィー、アミノ酸分析計用試料調整法の操作を修得する。 (4)調理過程に起こる諸問題の一部を取り上げ、基礎的実験を行う。 テキスト：松元文子、吉松藤子共著「三訂調理実験」

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
基 礎 化 学 実 験	久保田 大塚 村田 大橋	Ⅱ 後	定性及び定量実験を通じて、基本的な化学実験の手法を学ぶ。
調 理 学 実 習 Ⅰ	畑 江	Ⅰ 後	調理の手法及び食品の取り扱い方の要点を基礎的調理の実習を通じて習得する。
調 理 学 実 習 Ⅰ	松 本	Ⅱ 前	主として日本料理を実習し、食品の扱い方、献立構成、食卓作法についての説明を行う。
調 理 学 実 習 Ⅰ	下 村	Ⅲ 前	主として中国料理と欧風料理の講義、実習並びに、献立構成及び食卓作法の説明を行う。
特 殊 栄 養 学	橋 詰	Ⅲ 後	乳幼児栄養、学童・生徒の栄養、母性栄養、老人と栄養、労働と栄養、飽食時代の栄養素の偏り、肥満、成人病の発症と予防、今日のビタミン欠乏症について講義する。
食 品 微 生 物 学	山 崎	Ⅲ 前	食品の加工、貯蔵に関係する微生物をはじめとし有用微生物の基礎及び応用について述べる。即ち微生物の種類、形状と機能、一般生理、遺伝学、発酵生産、遺伝子操作などについて述べる。
食 品 物 理 化 学	内 藤	Ⅱ 後	化学ポテンシャルの概念を使って、物質の熱力学平衡と化学平衡について演習問題を交えながら講義を行う。
調 理 器 具 論	平 野	Ⅱ 前	調理器具を構成する各種材料の特性を概説し、機械的調理操作及び加熱調理操作に用いられる器具について、構造、性能、使用法を解説する。
調 理 学 実 習 Ⅱ	松 本	Ⅱ 後	日本料理、中国料理を実習し、各食品材料の特色を生かした技法の説明を行う。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
調理学実習Ⅱ	下村	Ⅲ 後	主として欧風料理を実習し、食品の扱い方、献立構成、食卓作法などの説明を行う。
食事計画論	東畑	Ⅲ 前	健康で長生きするためには、食事が大切なのは言うまでもない。特に、健康面からの食事計画をしてみたい。老化もまた生理現象の一つゆえ、おだやかに、ゆっくり迎える心がけが大切である。
食糧政策	宮崎	Ⅱ 後	わが国の食糧の生産、輸入、流通、消費を通しての問題について論述し、安全保障、食生活のあり方についても触れる。
食物史	石川	Ⅱ 前	日本における食文化発展の軌跡を、食材料・加工・献立・調理・食事などの観点から考察する。特に、近世より近代にかけての社会変革期における動態に重点をおく。
食物研究方法	山口	Ⅲ 後	食物の香り、味などの官能特性を人間の五官を用いて把え、数量化するための理論と方法について解説する。実習も行う。テキストはその都度配布する。
食物学特殊講義	山中	Ⅲ 後	水産食品の原料となる魚介類の化学及び生化学について講義する。タンパク質、脂質、エキス成分などの筋肉構成成分について主に述べ、更に死後変化、鮮度判定方法及び水産食品衛生におよぶ。
	沖谷		乳・肉・卵とそれらの加工品の特性を化学的に論ずる。それには、乳・肉・卵の構成成分の特性とそれらの存在形態及び貯蔵、調理、加工時の変化について述べる。加工品の製造法も概説する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
食物学演習	全教官	Ⅳ	外国で発表された近着研究論文の解説と討論。
食物学輪講(栄養学)	荒川大塚	Ⅳ	栄養学に関する外国書、文献の輪読。
食物学輪講(食品学)	小林久保田	Ⅳ	食品学に関する英文書籍、文献の輪読。
食物学輪講(食品貯蔵学)	本間村田	Ⅳ	Inside Chemistry(Compton著)、Foundations of Food Science(Hawthorn)をテキストにする。専門用語、技術的表現法についても言及する。
食物学輪講(調理学)	島田畑江	Ⅳ	調理学に関する外国書及び文献の輪読。
食物学輪講	五十嵐大橋倉田富永	Ⅳ	食物学に関する成書、総説を輪読する。
応用統計学	鈴木前		統計データの表現、代表値、確率の説明をまず行い、続いて統計解析の基礎的なところの、推定、検定、分散分析、実験計画法の初歩を講義する。 テキスト：「統計学の基礎」J.C.ミラー著(村上正康訳)培風館
応用統計学演習	鈴木後		基本的な問題について具体的なデータに基づいて解析する。理論の内容の理解と、その応用力を養う。

家政学部 食物学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
栄養化学特論Ⅰ	荒川	I・II 前	栄養化学に関する基礎的諸問題及び代謝調節について解説する。
栄養化学特論Ⅱ	大塚	I・II 前	栄養に関連した最近の研究を中心に、生体機能と栄養素について解説及び演習を行う。
特殊栄養学特論	安部井	I・II 前	病態栄養学を中心として、栄養と疾病、特に成人病と栄養について解説し、議論する。
食品化学特論Ⅰ	小林	I・II 後	食品成分の化学的研究法について。特に化合物の構造解析に用いられる機器分析法について、最近の成果を中心に解説する。
食品化学特論Ⅱ	久保田	I・II 前	食品成分の構造解析に用いられる最近の機器分析法についての解説と演習。
食品微生物学特論	富永	I・II 前	食品微生物学に関する最近の研究を中心にし、微生物の生活へのかかわり方、遺伝子工学の基礎についても触れる。
食品貯蔵学特論Ⅰ	本間	I・II 前	(1)タンパク質のアミノ酸分析法とペプチドの分析 (2)油糧種子の食糧資源特性 (3)食品中の水分の挙動 (4)メラノイジンの特性 (5)最近の食品貯蔵技術の進歩
食品貯蔵学特論Ⅱ	村田	I・II 前	食品貯蔵・加工にかかわる最近の微生物学的並びに化学的研究及びその手法についての解説と演習。
調理学特論Ⅰ	島田	I・II 前	調理過程における諸現象と嗜好特性との関連及びこれらの文化的背景について、解説及び演習を行う。
調理学特論Ⅱ	畑江	I・II 前	調理過程の諸現象のうち特に加熱に関する変化を中心にして解説及び演習を行う。

科学選考

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
生物化学特論第Ⅰ	五十嵐	I・II 後	生体における必須脂肪酸代謝、脂溶性ビタミンの生理作用などについての最近の研究の過程について解説する。
生物化学特論第Ⅱ	倉田	I・II 前	水溶性ビタミンが関与する各種の生化学反応について、反応機構を中心に解説する。
環境生化学特論	大橋	II 後	生活環境にかかわる最近の生理・生化学的研究のトピックスを解説する。
食物学特別講義	矢野	I・II 前	伝統的な、更に将来へ向けてのバイオテクノロジーを飲食品関連分野について、最近の話題を中心に解説する。
食物学特別講義	小野田	I・II 後 (集中)	感覚生理学を概略し、「ニオイ」の脳内情報処理機構について、解説する。
食物学特別講義	丸井	I・II 後 (集中)	脊椎動物の味覚受容のメカニズムについて、受容体のレベルから中枢に至る最近の生理学的研究を中心に解説し、基本味及び混合味について考察する。

被服学科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
被服材料学Ⅰ	小川	Ⅰ 前	繊維から被服まで、その種類、構造及び機能。参考書：N.Hollen他著“Textiles (Collier Macmillan)
被服整理・染色化学	中島 駒城	Ⅰ 後	1. 洗浄と染色、2. 洗浄作用と洗浄理論、3. 吸脱水と吸脱湿、4. その他洗浄関連事項、5. 染料、6. 繊維の染色性、7. 染色理論、8. 色と発色理論、9. 感覚の科学（視覚、触覚、ぬれ感覚）
被服構成学Ⅰ	長谷部	Ⅰ 後	人体の形態および衣服の構造について。
被服構成学Ⅱ	田辺	Ⅱ～Ⅳ 前	人体の温冷感・快不快感、被服の材料、着装と構造、保温性などについて学ぶ。
服飾美学	小池 徳井	Ⅰ 後	服飾史にあらわれる事象や文学作品の服飾描写をとりあげながら、服飾とは何かを考える。
一般美学	板倉	Ⅰ 前	美の思想と芸術の歴史。
被服材料学Ⅱ	小川	Ⅱ 前	繊維、被服材料及び生活材料を高分子科学に基づいて学ぶ。
被服整理学Ⅰ	駒城	Ⅱ 前	繊維製品の洗浄に関する諸問題ならびに漂白、蛍光増白、仕上げ、洗浄作用の基礎理論について述べる。
被服材料学実験	小川	Ⅱ 前	糸、布の構成。顕微鏡、試薬等による定性。引張、摩擦、圧縮、しわ、剛軟などの力学的性質。教科書：松川「被服材料実験」
染色整理学実験	駒城	Ⅱ 後	水の硬度測定（セッケン法）、洗剤溶液の特性、洗たく機の洗浄力試験、漂白と蛍光増白、染料の識別、直接および酸性染料による染色実験。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
被服構成学実験実習Ⅰ	長谷部	Ⅱ	衣服地の接合、その強さ、縫いつれ、衣服地の曲面化など被服構成に関する基礎的な実験および実習。
被服構成学実験実習Ⅱ	田辺 小川	Ⅲ	被服の接合強度、温度、湿度、衣服地の曲面化など被服構成に関する基礎的な実験および実習を行う。
西洋服飾史概説Ⅰ	徳井	Ⅱ 前	古代から近世初頭までの西洋服飾を概観する。
西洋服飾史概説Ⅱ	徳井	Ⅱ 後	近世中期から現代までの西洋服飾を概観する。
応用統計学	鈴木	Ⅲ 前	統計データの表現、代表値、確率の説明をまず行い、続いて統計解析の基礎的なところの、推定、検定、分散分析、実験計画法の初歩を講義する。 テキスト：「統計学の基礎」J.C.ミラー著（村上正康訳）培風館
応用統計学演習	鈴木	Ⅲ 後	基本的な問題について具体的なデータに基づいて解析する。理論の内容の理解と、その応用力を養う。
被服機構学	小川	Ⅱ 後	人間-被服-環境系での被服の役割、測定の手法、新素材等について解説する。
被服衛生学	中島	Ⅱ 前	人間-被服-環境系の中での衣服の役割を体温調節作用を中心に概説し、衣服と健康との関係や衣服の今後の諸問題について討議する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
織 維 物 理 学	中 村	Ⅲ 前	1. 高分子とは何か、2. 高分子鎖のかたち、高分子鎖の性質、4. 分子量と分子量分布、5. 高分子の固体構造、6. 高分子の性質。教科書：荻野一善編「高分子化学—基礎と応用」
高 分 子 材 料 化 学	小 川	Ⅲ 前	高分子化学の基礎（高分子生成反応、速度論、連鎖重合、共重合、重縮合、重付加、高分子の反応、高分子材料、機能性高分子、複合材料）
織 維 化 学	小 川	Ⅲ 後	天然繊維、再生繊維、半合成繊維、合成繊維、無機繊維について、生成、構造、物性、反応を個別的に解説する。
被 服 整 理 学 Ⅱ	中 島	Ⅲ 前	1. ぬれ、2. 吸着、3. 分散系の安定性、4. 接着の物性、5. 塗膜の光学的性質、6. 流れと相似則
染 色 化 学	駒 城	Ⅱ 後	染料の部属別分類と各特性、染色物の色、堅ろう度、染色の基礎理論について解説する。
応 用 物 理 化 学	小 見 山	Ⅲ 後	
基 礎 化 学 実 験	中 島	Ⅱ	分析化学・物理化学の基礎的な実験を行う。
高 分 子 材 料 化 学 実 験	小 川	Ⅲ 前	ラジカル重合（懸濁重合・乳化重合）高分子反応、重合度測定、赤外及び紫外吸収スペクトル。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
織 維 化 学 実 験	小 川 未 定	Ⅲ 後	界面重縮合によるナイロンの合成、高吸水生ポリマーの合成と膨潤度。セルローズへのグラフト重合。ゲル透過クロマトグラフィー、熱分析等。
被 服 機 構 学 実 験	小 川 未 定	Ⅲ 後	布地の通気、保温、透湿、熱伝導、摩擦係数、振り剛性、着衣時の皮膚温、衣服圧、衣服内気候、clo値などの測定。教科書：松川「被服材料実験」（家政教育社）
染 色 化 学 実 験	駒 城	Ⅲ 前	モノアゾ染料の合成、精製、混合染料水溶液の分光吸収曲線、染色量の定量、各種染料の染色性および堅ろう性。
被 服 環 境 学 演 習	中 島	Ⅲ・Ⅳ 後	人間-被服-環境系の中での衣服の役割を (1)環境に対する熱・水分収支 (2)繊維特性・布特性 (3)着用感に関する神経生理学・計量心理学 (4)動作に伴う衣服内微気候と環境との相互作用等の点から考察。
被 服 整 理 学 実 験	平 井	Ⅲ 前	1. 界面化学基礎実験（表面張力・単分子膜・cmc・起泡力など） 2. 洗浄科学基礎実験（界面活性剤の吸脱着・モデル汚れの吸脱着など）
被 服 材 料 化 学 演 習 Ⅰ	小 川	Ⅲ・Ⅳ 前	Moncrieff "Man-made fibres" 及び外国雑誌の講読。
被 服 材 料 学 演 習 Ⅰ	未 定	Ⅲ・Ⅳ 後	
被 服 整 理 学 演 習	駒 城	Ⅲ・Ⅳ 前	Durham "The Surface Activity and Detergency" の講読他。

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
応用物理化学実験	平井	Ⅲ 後	1. 吸着平衡と脱着平衡(吸着等温線の型・吸着等温式・吸着の熱力学など)。 2. 拡散速度の解析(フィック型拡散と非フィック型拡散・拡散係数・透過係数など)。
被服科学輪講	中島 小川 駒城 未定	Ⅳ	近着外国文献の論読と討論。
被服構成学実験実習Ⅲ	古松	Ⅲ	和服の基本構造及び縫製法を理解し、平面構成と立体構成の相違を考察する。被服構成における諸問題について実験実習を行う。
被服構成学特講Ⅱ	保志	Ⅲ 前	被服基体としての人体について、最外層にあって被服に直接接触する皮膚、及び人体外形形成に決定的役割を演じている筋肉と骨を中心に、神経の動きや血液循環についても述べる。
被服構成学特講Ⅰ	長谷部	Ⅲ 後	被服構成に関する事柄について。
被服構成学演習Ⅰ	長谷部 田辺	Ⅲ 前 Ⅲ 後	人体の形態、縫製、衣服の機能に関連した諸問題の講読。
被服構成学演習Ⅱ	長谷部 田辺	Ⅳ	被服構成に関する基礎と応用についての諸問題の演習。
被服構成計画	栃原	Ⅲ 後	

科 容 目	教 官	学 年	講 義 内 容
被服学特殊講義	篠塚	Ⅳ 前	
日本服飾史概説	小池	Ⅱ 西	古代から近代までの日本服飾を概観する。
一般美学演習	板倉	Ⅲ	前期、井島勉:「美学」の講読。 後期、カントの「判断力批判」の講読。
生活芸術学演習	徳井	Ⅳ	V. STEELE; Paris fashion(Oxford U.P. 1988) の講読と討議。
服飾史演習	徳井 小池	Ⅲ	J. Evans, Dress in mediaevae France, (Oxford U.P. 1952)の講読と討議。(前期)日本服飾史に関する文献および絵画資料の検討。(後期)
服飾美学演習	小池	Ⅳ	近世日本の風俗画・風俗絵本の主題と服飾表現を検討する。
生活芸術学	板倉	Ⅳ 後	現代的表現の志向性について。
服飾美学特講	徳井 小池	Ⅳ 前	近代フランス服飾から、ダンディズムをとりあげる。(前半)近世から近代にかけての日本服飾の種々相を考察する。(後半)
服飾史特講Ⅰ	鈴木	Ⅲ 前	それぞれの時代の生活空間を背景に、人間の服飾活動は多様な展開を示す。このことを明治末期から大正期の日本に取材し考えてみる。女学生のこと、また竹久夢二や北原白秋の作品を検討する。

家政学研究科 被服学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
服飾史特講Ⅱ	成 田	Ⅲ 後	平安期の服飾を通じて、和様化の現象をとらえ、美意識の問題についても考える。「西宮記」など、服飾に関する記録類の検討に加え、「源氏物語」などの服飾描写についてもみてゆきたい。
美学特講Ⅰ	利 光	Ⅲ 前	西欧において美学が哲学の一分野として成立したのは18世紀のことであるが、それ以前に美論がなかった訳ではない。古典古代に溯って美の観念を探ってみる。
美学特講Ⅱ	利 光	Ⅲ 後	前世紀以降、価値観の多様化により、古典美の伝統が失われてしまっている。とすれば現代美学の主題は、いずこにあるのか。その主要なものを追究する。
流行情報論	板 倉	Ⅲ・Ⅳ	流行伝達の構造について。
情報設計演習	板 倉	Ⅲ・Ⅳ	ジュディス・ヴェクスラー編。「形・モデル・構造」の講読。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
被服材料学特論	小 川	Ⅰ・Ⅱ	被服材料のキャラクターゼーション。並に関連した文献の講読。
応用界面化学	角 田	Ⅰ・Ⅱ 前	洗浄、染色、繊維表面加工などに関連する界面現象（ぬれ、吸着、分散、乳化、泡、接着など）を界面の構造の点から説明する。
洗浄科学特論	駒 城	Ⅰ・Ⅱ	洗浄の基礎理論として、固液界面現象について吸着と水の役割を中心に文献の講読と解説を行う。
生活材料学特論	未 定	Ⅰ・Ⅱ	
被服環境学特論	中 島	Ⅰ・Ⅱ	人間-被服-環境系での衣服の役割を温熱生理学面から捉えた古典の講読・解説を行う。 教科書：Newburgh編「Physiology of Heat Regulation and the Science of Clothing」
被服構成学特論Ⅰ	長谷部	Ⅰ・Ⅱ	被服設計に関する諸問題に関する事項について。

家庭経営学科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家政学原論Ⅰ	松 浦	I 前	学問としての家政学の位置づけ、家政学における人間観、生活観、などに関する基礎的事柄について紹介し解説する。
家政学原論Ⅱ	富 田	Ⅲ 後	家政学原論の書物をいくつかとりあげ、比較検討をおこなう。
家庭生活論	福 田	Ⅲ (集中)	柳田国男が切り開いた民俗学の研究成果に基づいて、日本社会における家庭生活の諸相を紹介し、日本の社会は単一ではなく、大きな地域差があることを明らかにしたい。
家庭経済学概論	犬 塚	I 中	家庭経済学に関する基礎的諸概念の理解を中心とする。
	正 田		消費生活をめぐる問題について、経済社会の発展に対応する市民社会における捉え方、それぞれの国における市民の意識と関係させながら、わが国の問題を中心に検討する。消費者の権利が中心となる。
家庭経済学Ⅰ	中 村	Ⅱ	テキスト：西川俊作『経済学第3版』（東洋経済新報社）を使用し、経済の理論と基礎事実を広い範囲にわたって講義する。専門研究に役立つよう、基本的な考え方に重点をおく。
家族関係学概論	袖 井	Ⅱ 前	家族関係学の基礎概念および現代における家族関係の諸特徴について講義する。
家族社会学Ⅰ	長 津	I 後	家族社会学を学ぶうえで必要な概念、研究方法の紹介とともに、現代における家族問題をいくつかとりあげ、社会学的な視点から考察する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家族社会学Ⅱ	牧 野	Ⅱ 後	現代日本の家族における人間形成の機能の問題を中心に考察する。しつけ、家庭教育、親子関係などを社会学的視点から分析する。
家庭法律学Ⅰ	湯 沢	Ⅲ 前	家族を律する民法第4・5編の成立・親族・婚姻・離婚・親子・婚約等に関する法的構成と裁判例の具体的説明。(小型)六法全書が必要。
社会統計学	藁 谷	Ⅱ	記述統計、確率、確率分布(ベルヌーイ、2項、幾何、ポアソン、正規)、推定(パラメータ推定法、推定量の特性)、仮説検定、回帰分析の講義と演習を行う。計算器具(少なくとも関数電卓が必要)を用意のこと。希望によってBASICでポケコンを使う。テキスト：バタチャリヤ・ジョンソン『初等統計学』(1、2)(東京図書)
人間関係学	湯 沢	I・後	「日本人の生活価値観」を対象に、諸々の具体例から考察する。
	飯 長		受講生自身のあり方を体験的に理解することを通して、人間を考える。
	杉 田		近代における人間像及び政治社会の形成について、政治思想史の観点から講義する。教科書：福田敏一『近代の政治思想』(岩波新書)
家庭経営学演習Ⅰ	A 富田 B 袖井 湯 沢	Ⅲ 前	「家庭生活」に関する事柄について、資料収集、分析、討論を通して理解し視野を広める。

家庭経営学科

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家庭経営学演習Ⅱ	C 犬塚 篠塚 D 中村 牧野	Ⅲ 後	経済企画庁編「国民生活白書」大蔵省印刷局発行を参考文献とする。 経済関係の読みやすい本を輪読する。 経済関係の論文、または書物の輪読を行う。参加者とテキストは相談してきめる。 本科目はA、Bから1つ、C、Dから1つを履修すること。
家政学史	亀 高	Ⅲ 後	江戸後期以降のわが国における家政理念と家政学の成立過程について、時代背景とともにその特質を概説する。ついで、この史的考察を通して、現在および将来の家政学の課題を考究する。
家庭管理学概論	富 田	Ⅱ・Ⅲ 後	家庭生活を営む家族の欲求をどのようにして満たすかについて講義する。
家政学原論演習Ⅰ	富 田	Ⅳ	家政学原論に関する基本的文献を読み、内容について討議する。
家政学原論演習Ⅱ	松 浦	Ⅳ	文献の講読と討論。科学的研究法についても学ぶ。
人 類 学	松 浦	Ⅱ 後	人類の起源・進化・変異について考察する。
人類学実験実習	富 田 松 浦	Ⅲ 後	人間の形態と機能および行動について、観察、測定の基礎的技術を身につける。
人間工学	堀 野	I～IV (集中)	作業の中から苦痛や不安全を取除く事が出発点。人間のミスと事故、使い易い道具、判り易い情報表示、疲労などを日常生活の場で捉えて論ずる。 教科書：F・ケラーマン他著小木沢「人間工学の指針」(日本出版サービス)

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家庭経済学Ⅲ	中 村	Ⅲ 前	家計の収支の諸面について、実際のデータを用いて講義し、ときには演習の形式をまじえ、実際の分析になれるように努める。テキストは使用しない。
家庭経済学演習Ⅰ	中 村	Ⅳ	家庭経済学の分野で卒業論文をまとめるため、個別のテーマに即して指導する。出席者と相談してテキストを読むこともある。
家庭経済学演習Ⅱ	犬 塚	Ⅳ	卒業論文指導を中心とする。
家計簿記Ⅱ	大 塚	Ⅲ 前	簿記は今日の経済社会において欠くことのできない重要な用具となっている。この簿記は明治6年に福澤諭吉によって、日本に始めて紹介された。本講義では商業簿記を中心に簿記の原理を学ぶ。
生活設計論	今 井	I～IV (集中)	経済社会環境の変化分析と生活設計の必要性の自覚、生活設計診断の原則と方法、システム・ダイナミクスによる生活設計の方法、長寿社会一年金の構図等生活設計政策、生活設計—消費者教育など。
消費者経済学	犬 塚	Ⅲ 前	消費者経済学に関する基礎的諸概念の理解を中心とする。
消費者経済学実習	犬 塚	Ⅲ 後	前期「消費者経済学」における基礎的諸概念の理解および理論的基礎をふまえた上で、実証的に日本の現状を分析し、諸外国との国際比較を行う予定。
労働経済学	篠 塚	Ⅱ・Ⅲ 後	島田晴雄『労働経済学』(岩波書店)をテキストとして現代の労働問題を考える。
労働経済学演習	篠 塚	Ⅳ	卒業論文の作成指導と経済学のテキストを読書会形式で行うことを併行する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
経 済 史	中 村	Ⅱ・Ⅲ 前	明治以後の日本近代経済史を要約講義する。中村著「昭和経済史」(岩波書店)をテキストに用いる。
老 年 学	袖 井	Ⅲ 後	老年学の基礎概念、理論および現代における老人問題の諸相を考える。
家 族 心 理 実 習	未 定		
家 族 関 係 学 演 習	湯 沢 袖 井	Ⅳ	家族と社会の関係についての、基礎概念の再検討、具体的問題の調べ方まとめ方、内外文献の講読と討論など。卒業論文指導も兼ねる。
家 庭 科 教 育 学 演 習 Ⅰ	牧 野	Ⅳ 前	家庭科の教科理論、教育内容の編成、教育方法のあり方、等の問題を検討する。
家 庭 科 教 育 学 演 習 Ⅱ	牧 野	Ⅳ 後	家庭科教育学の課題と研究方法について検討する。卒業研究指導も兼ねる。
比 較 家 族 研 究	原	Ⅱ・Ⅲ 前	諸社会における家族のあり方について比較考察し、人間にとって家族とは何かを考える。
社 会 福 祉 学	田 端	Ⅲ 後	現代社会の生活問題=社会福祉の課題とわが国における政策を概説し、とくに高齢社会における社会福祉のあり方を、家族とコミュニティの視点から研究する。
家 庭 法 律 学 Ⅱ	湯 沢	Ⅲ 後	家庭法律学Ⅰに引き続いて、親権・養子・扶養・相続・家事裁判制度等を、実例を多用しながら法社会的に考察する。演習形態をとる。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
応 用 統 計 学	鈴 木	Ⅲ 前	統計データの表現、代表値、確率の説明をまず行い、続いて統計解析の基礎的なところの、推定、検定、分散分析、実験計画法の初歩を講義する。 テキスト：「統計学の基礎」J.C.ミラー著(村上正康訳)培風館
応 用 統 計 学 演 習	鈴 木	Ⅲ 後	基本的な問題について具体的なデータに基づいて解析する。理論の内容の理解と、その応用力を養う。
住 宅 設 備 及 び 環 境	在 塚	Ⅰ～Ⅳ (集中)	現代の住生活の特徴を踏まえた望ましい住居の条件を多面的に考察する。その上で、健康に生活できる住宅環境の条件とそれを実現するための設備について述べる。

家政学研究科家庭経営学専攻

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家政学原論特論Ⅰ	富 田	Ⅰ	学問論の文献を検討しながら家政学の発展を考える。
生活史特論	松 浦	Ⅰ・Ⅱ 後	人の生活技術を進化史的に概観する予定。具体的には履修者と相談の上決める。
家庭経済学特論Ⅰ	篠 塚	Ⅰ 前	婦人労働に関する最新の英文原書をテキストに使用して討論をする。テキストは学生と相談の上決める。
家庭経済学特論Ⅱ	中 村	Ⅰ 後	家庭経済学上のトピックをとりあげ、適当な論文、書籍を講読する。内容は相談して決定する。
経営経済学特論	大 塚	Ⅰ	履修者と相談の上テキストを決める。
家庭法律学特論	星 野	Ⅰ 後	現実に発生する家庭法律問題を中心として、法社会的に考察する。
比較家族研究特論	袖 井	Ⅰ・Ⅱ 後	女性のライフサイクルを中心に、日米比較を試みる。
家庭経営学特別講義	原	Ⅰ・Ⅱ	生活とは何か、人間の諸社会において「生きる」ということはどういうことかを考える。
家庭科教育特論Ⅰ	牧 野	Ⅰ 前	アメリカで使われている中学・高校生用の家庭科の教科書を読みながら、教育内容、教育方法等について、日本の現状との比較考察を行う。

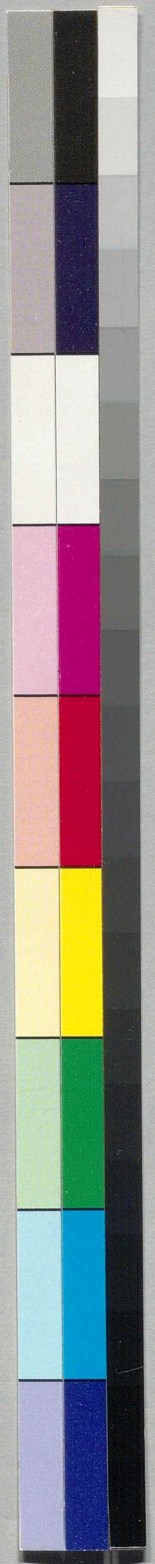
家庭科教職共通科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家庭看護学	山 口	前 (集中)	家庭看護学の基礎を救急法等の実技をまじえて講義する。プリント使用。
家庭機械及び家庭電気	葛 岡	Ⅱ (集中)	1. 電気機器のしくみと利用 2. 家庭機械のしくみと利用 3. 簡単な電気器具の製作
調理実習	市 川	Ⅱ 児 童	手法別、食品別の基礎調理及び調理実験。
調理実習	松 本	Ⅲ 前 被 服	手法別、食品別の基礎調理及び調理実験。
調理実習	浜 島	Ⅱ 家 経	手法別、食品別系統による基本調理及び調理実験。
被服構成実習	岡 田	Ⅲ	被服構成に関する基礎的事項並びに基礎的技術の実習。教科書：柳沢澄子編著「被服構成学実験」(産業図書)
被服構成実習	林	Ⅱ 前	
被服構成実習	川 端	Ⅱ	被服構成に関する基礎的事項並びに基礎的技術の実習。

家政学部・共通科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
家政学 原 論	富 田	I 前	家政学の根本原理を、学問論、人間論、生活論の3つの柱の観点から講義する。
児童学 概 論	全教官	I 前	児童における人間の探究。全教官が担当し、児童学全般を展望し、各領域に関する紹介と導入を行う。
食物学 概 論	荒川 島田 久保田 村	後	食物学を自然科学の立場から、栄養学、食品学、調理学、貯蔵学それぞれの関連において概説する。
被服学 概 論	全	I 前	被服材料学、染色・整理学、被服構成学、服飾美学などの概要を述べ、被服学を展望する。
住居学 概 論	小川	前	住生活の基本的条件をふまえて生活の拠点である住居について、生活機能・空間機能・構成機能の諸側面から論じる。
	原	I・II	生活とは何か、人間の居社会において「生きる」ということはどういうことを考える。
			アフリカ・欧米・中国の家庭科の教科書を読みながら、教育内容、教育方法等について、日本の現状との比較考察を行う。

教 職 専 門 科 目



教職専門科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教 育 心 理	中 村	文教育 I～III 前	子どもの発達と教育に関する心理学の概説。テキストは開講時に指定する。
教 育 心 理	勝 浦	理・ 家 政	未 定
青 年 心 理	春 日	文教育 I～III	発達と青年期をめぐる諸理論について学び、現代と青年期の適応の問題を中心に考える。
青 年 心 理	大日向	理・ 家 政 I～III 後	青年期の発達の意義を明らかにし、今日の青年期における諸問題について考える。
初 等 教 育 原 理	鈴 木	II・III 前	初等教育における美術教育のありかたを探る。特に子どもの表現の指導の問題は重要である。戦後日本における美術教育運動について具体的に論じたい。
教 育 原 理 I	上 野 小 川	文教育 II・III 前	教育の概念や目的、学校教育の目的、内容、方法などについて概説する。
教 育 原 理 I	山 本	理・ 家 政 II～III 前	学校教育の目的・内容・方法を把握しながら「教育とは何か」を考える。今日における教育の諸問題について、受講者とともに解決の手懸りを求める。
教 育 原 理 II	耳 塚	文教育 II・III 後	学歴の社会学。学歴主義とは何か、学歴社会は実像か虚像か、なぜ就職や昇進において学歴が重視されるかなどのテーマをとおして、学歴・学校と社会構造との結び付きを考察する。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教育原理Ⅱ	宮原 理・干家 政Ⅱ・Ⅲ後		教育指導の方法について講義する。
道徳教育の研究	尾田 I・Ⅱ前		I 道徳教育とは何か。II 「道徳」の時間とは何か。III 「道徳」の時間を進めるにはどうしたらよいか。IV 道徳教育を支えるものは何か。 テキスト：「小学校指導書」・「中学校指導書」道徳編
教育哲学	鈴木 I～Ⅳ後		ヨーロッパ近代の教育思想および戦後日本の教育学の展開をふまえた上で、今日の教育と教育学がかかえる問題を考察する。
教育史	清水 I～Ⅳ前		日本に即して、近代公教育の思想とその構造的特質を検討する。「天皇性と教育」「児童観」「戦争と教育」「戦後教育改革」などのテーマをとりあげ、現代の「教育」を問い直す契機としたい。
教育社会学	耳塚 I～Ⅳ前		教職の社会学。教職は専門職か、教員の社会的地位、職業的社会化、教員文化等をとらえて、教職の社会的特質を考える。
教育行政学	森 I～Ⅳ後		教育行政学の基本的キーワードをデュアル思考で検討しながら、教育行政、制度の全体像を解説する。 教科書：森編「学校小六法」(協同出版)
社会教育	小川剛 I～Ⅳ		自分に与えられた人生をいかに充実したものにするかという観点から、生涯にわたる学びについて述べる。教職科目ということから、学校外教育にもふれたい。

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
教育実習		Ⅳ	高校・中学校教員のための実習(2単位) 小学校・幼稚園教員のための実習(4単位)
(小学校教材研究)		I～Ⅳ	小学校教員希望者に隔年で4教科ずつ開講する。
国語科教材研究	澤本 後期(金)		小学校の国語教育について、実践・研究を行う立場から、その目的・内容・方法について概説する。教材研究・授業研究の方法を具体的に取り上げて、よい授業とはどのようなものかを考えたい。
社会科教材研究	黒部 前期(月)		児童の発達段階に即した社会科学習の内容と方法について概説する。一部屋外指導の実際も含み、教材の扱い方や授業の構成のしかた、評価の方法等について、具体例を示して解説する。
算数科教材研究	星野 後期(月)		算数教育の実際即し、その指導内容、方法について概説する。教材の扱い方や授業の構成のしかた、評価の方法等について、教科の特性である系統的な面からと児童の発達段階の面から解説する。
理科教材研究	宮崎 前期(金)		自然の事物事象を対象とする理科教育の特性をふまえて、その指導内容や指導方法、評価の仕方などについて概説する。低学年では総合学習の中で、自然とのかわりについて実際に即して解説する。
(保育内容の研究)		I～Ⅳ	幼稚園教員希望者は、下記科目及び別に定める科目から単位を修得する。
保育内容の研究Ⅰ			本年度開講せず。
保育内容の研究Ⅱ	未定	I～Ⅳ	

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
保育内容の研究Ⅲ (教科教育法)	未 定	I~Ⅳ	
社会科教育法	坂下 高橋	Ⅲ 前	社会科教育の歴史、目標、内容、方法等について、中学校・高等学校にわけて概略を講義する。使用テキスト：『中等社会科教育学』（社会認識教育学会編、第一学習社）
国語科教育法	古屋 田中	Ⅲ 前	国語科教育の目標・内容・方法等について、学習指導要領に準拠しつつ、中学校、高等学校を主として講義する。使用テキスト：全国大学国語教育学会編中学校、高等学校「国語科教育研究」
中国語科教育法	藤山	Ⅲ	中国語の教材研究を通じ、中国語教育の目標・内容・方法などを考える。
英語科教育法	園城寺 今西	Ⅲ 前	英学史・英語教育史・英語教育の目標・各種の英語教授法・応用言語学・言語心理学、また速読理論・教案作成等について講義する。教科書：伊藤健三編「実践英語科教育法」（リーベル出版）（園城寺）夏期休暇中にClose(1981) ³)English as a Foreign Languageを読んで試験を行う。 (今西)
仏語科教育法	中村 (弓)	Ⅲ	朝倉季雄「フランス文法ノート—基本語の用法—」（白水社）

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
保健体育科教育法	細江	Ⅲ 後	体育の学習指導をめぐる要因としての学習者、教師、運動及びその他の学習環境が、社会の変化とともにどのような構造で捉えられてきたか、実践例を紹介しながら解説し、現代の課題を論じていく。
音楽科教育法	小宮	Ⅲ	各自の音楽体験を省みることにより、音楽科の授業で扱う内容と方法と評価について分類し考察する。そして各自の音楽教育観の実現に向けて展望することにより、総合的な視野から指導計画を捉える。
数学科教育法	橋本	Ⅲ 前	中学・高校の数学のカリキュラム・指導法・目標・評価などについて、作業を重視しながら講義する。
理科教育法	石川	Ⅲ 後	理科は自然の美しいしくみをたたえるために歌われた詩である。その心を濁りなく伝えるための道をさぐる。
家庭科教育法	牧野	Ⅲ 前	家庭科教育の歴史と現状を概観し、家庭科の存在意義、内容の編成、指導方法について講義する。高校家庭科を中心に指導計画や指導案の作成演習も含めたい。 参考書：現代家庭科教育法、家政教育社

教職共通科目

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
書 道 本 郷	I~IV 前	・毛筆（小筆）使用。ひらがな、変体が なを主とする。手本：あきつ仮名帖 ・ペン（ペン先は開講時に指示）使用。 漢字を主とし、実用を目的とする。 手本：伸多式のペン習字	
幼 小 体 育 実 技 長 澤	I~IV 前	なわ、ボールなどの手具や器械器具を使 って基本的な運動の実技を行う。また、 運動の観察法や系統性などについても概 説する。	
幼 小 体 育 実 技 未 定	I~IV 後	幼児・小学生を対象とした基本の運動及 び表現法について学ぶ。	
ピ ア ノ V 橘	I~IV	幼稚園・小学校の教員として必要な程度 のピアノ演奏法。教材は、簡易伴奏用 「音楽ノート」橘編他。4名1クラス。 隔週通年授業。	
声 楽 V 橘	I~IV	幼稚園・小学校の教員として必要な程度 の歌唱研究及び伴奏の研究。4名1クラ ス。隔週通年授業。	
合 唱 V 指 揮 法 II 橘	I~IV	幼稚園・小学校の教材程度の合唱曲の研 究と指揮実習。	
社 会 科 教 育 論 斉 藤	II~IV 前	戦後初期、「公民科」から「社会科」へ の展開のうちに内在した「方法主義」の 今日的可能性を、「暗記社会科」克服へ の具体的授業論として再生させる。テキ スト：プリントを配布する。	
算 数 科 教 育 論 未 定	I~IV 後		

日本語教育基礎コース

科 目	教 官	学 年	講 義 内 容
日 本 語 教 育 法 I	水 谷	III・IV	外国語としての日本語教育の方法の基本 についての講義と演習。言語教育方法論、 教材、基本文型、基本語彙、音声、教室 作業、評価など。教科書：水谷著「An Introduction to Modern Japanese」他。
日 本 語 教 育 法 II	水 谷	III・IV	外国語としての日本語教育の方法中、学 習者の母語との比較、言語行動、教材作 成法などに重点をおいて講義と演習を行 う。教科書：水谷信子「日英比較話しこ とばの文法」、O & N. Mizutani "Nihongo Notes 1"
日 本 語 教 育 法 演 習	水 谷	III・IV	外国語としての日本語教育の方法につい て、教案作成、模擬授業、授業見学、V T Rを用いての授業方法研究に重点をお いて演習を行う。教科書等は教室におい て指示する。日本語教育法I履修者に限 る。
日 本 語 学 講 義 演 習 I	平 田	III・IV 前	音声言語の基本を、実習を通して学ぶ。
日 本 語 学 講 義 演 習 II	平 田	III・IV 後	同 上
日 本 語 学 特 殊 講 義	平 田	II・III	日本語音声学を中心に、日本語教育を視 野において実習をまじえて音声言語を考 える。教科書：文化庁「音声と音声教育」

専任教官名簿

学長 河野重男

文教育学部

学部長(併) 教授 佐藤 保

哲学科

教授 尾田 幸雄
 教授 宮島 喬
 教授 米村 昭二
 教授 吉田 夏彦
 教授 辻 佐保子
 助教授 土屋 賢二
 助教授 高島 元洋
 助教授 江原 由美子
 助教授 秋山 光文
 講師 羽入 佐和子

史学科

教授 青木 和夫
 教授 大口 勇次郎
 教授 平野 孝
 教授 窪添 慶文
 助教授 山本 秀行
 助教授(併) 岸本 美緒
 助教授 安田 次郎
 助教授 小風 秀雅
 助手 脇本 和美

地理学科

教授 浅海 重夫
 教授 式正 英
 教授 井内 昇
 教授 内藤 博夫

助教授 栗原 尚子
 助教授 田宮 兵衛
 助教授 久保 幸夫
 助手 新井 桂子

国文学科

教授 堤 精二
 教授 市川 孝
 教授 浅井 清
 教授 三木 紀人
 教授 水谷 信子
 教授 白藤 禮幸
 助教授 平野 由紀子
 講師 平田 悦朗
 講師 大塚 常樹
 講師 大岩 崎千鶴
 助手 鈴木 啓子

外国文学科

中国文学・中国語学
 教授 佐藤 保
 助教授 藤山 和子
 助教授 相原 茂
 講師 宮尾 正樹
 外国人教師 狄 昌運
 英文学・英語学
 教授 野島 秀勝
 教授 酒本 雅之
 教授 宮川 幸久
 助教授 海老根 静江
 助教授 西尾 道子

助教授 今西典子
 助教授 湊和夫
 助教授 内田正子
 講師 松崎毅
 外国人教師 J・C・ルイス
 助手 市瀬ますみ
 独文学・独語学
 教授 杉本正哉
 助教授 石丸昭二
 仏文学・仏語学
 教授 中川信
 教授 石川宏
 助教授 中村弓子
 講師 中村俊直
 外国人教師 シャンタル滝野
教育学科
 教育学
 教授 森隆夫
 教授 小川剛
 教授 上野浩道
 教授 田中真砂子
 助教授 宮原修
 助教授 鷹野光行
 助教授 寺崎弘昭
 講師 耳塚寛明
 助手 加藤知佳子
 心理学
 教授 藤永保
 教授 春日喬
 教授 須賀哲夫
 助教授 内田伸子
 助教授 内藤俊史

講師 石口彰
舞踊教育学科
 舞踊教育学
 教授 森下はるみ
 教授 加賀秀夫
 教授 佐藤良子
 助教授 片岡康子
 助教授 石黒節子
 講師 杉山進
 助手 明尾真弓
 音楽教育学
 教授 大宮誠
 教授 徳丸吉彦
 助教授 遠藤秀一郎
 助教授 林廣子
理学部
 学部長(併) 教授 清水碩
数学科
 教授 沢島侑子
 教授 高村幸男
 教授 小川洋輔
 教授 小山敏子
 助教授 竹内順治
 助教授 藤原正彦
 助教授 渡辺ヒサ子
 助教授 前田ミチエ
 助教授 塚田和美
 助教授 桂利行
 助教授 竹尾富貴子
 助手 榎本陽子
 助手 成田希世子

物理学科
 教授 橋爪夏樹
 教授 田中翠
 教授 伊藤厚子
 教授 伊藤敬明
 教授 柴田文明
 教授 池田宏信
 教授 富永靖徳
 助教授 太田隆夫
 助教授 菅本晶夫
 助教授 佐藤浩史
 講師 亀井理
 助手 森本せつ
 助手 外館良衛二
 助手 飯田潤二
化学科
 教授 瀬野信子
 教授 細矢治夫
 教授 前田侯子
 教授 富田功二
 教授 大橋裕二
 教授 福田豊
 助教授 松本勲武
 助教授 永野肇
 助教授 今野美智子
 助教授 藤枝修子
 助手 石毛正義
 助手 堀佳也子
 助手 小川温子
 助手 鷹野景子

生物学科
 教授 太田次郎
 教授 新関滋也
 教授 能村堆子
 教授 清水碩
 教授 遠山益
 教授 石和貞男
 助教授 山下貴司
 助教授 馬場昭次
 助教授 林正男
 助教授 渡辺洋子
 助教授 芹原坦
 助手 西川恵子
 助手 松浦悦子
 助手 豊島陽子
 助手 室伏きみ子
 助手 最上善広
 助手 作田正明
環境科学(総合コース)
 教授 内嶋善兵衛
附属臨海実験所
 所長(併) 助教授 根本心一
 助教授 根本心一
家政学部
 学部長(併) 教授 本田和子
児童学科
 教授 本田和子
 教授 水野悌一
 教授 黒田淑子
 教授 森田明
 助教授 飯長喜一郎
 助教授 無藤隆

